決闘裁判 世界を変えた法廷スキャンダル

著者名	エリック・ジェイガー	発行年	2007年
出版社名	早川書房	ページ数	277ページ
値段	2,100円	ISBN	978-4152088734
コメント	1386年フランス。そんな遠いできごとなのに、決闘場の柵に顔を押しあてて、二人の騎士が槍と斧と剣で殺し合うようすが、まざまざと見えてくる。 ストーリーの焦点に立つのは美しいマルグリット。自分に辱めを加えた狼藉者を絶対に許さない。「沈黙を破れば醜聞とさまざまな危険に襲われる」と承知で、敢然と行動を起こした女性。この時代にあって、自らを貫いた稀有な精神が死闘の砂埃のかなたに、まぶしく輝く。 ジャンヌ・ダルクより、凄いかも。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
kyk ☆☆☆☆	スキャンダルはいつの時代のものでも 本当に面白い。 現実の話なのに現実ばなれして過激だ。			
	全部	277P (150分)	全部	2010/08/18 16:31:03
ドナルド ☆☆	二人の男が名誉・命をかけて，群衆が見守る中，文字通り決闘を行う．とても興味をひかれるあおりだったので読み始めたが，文章が単調でなかなか入りこめなかった．			
	1-147	147P (80分)	プロローグ	2010/07/31 16:12:14
yuigawa ☆☆	全体的に退屈だ。ちょっと期待外れでがっくり。伝えたいことがぎっちり詰まっているのかもしれないが冗長で、もっとシャープに構成してくれたらワクワクどきどき手に汗握るような感じで読めたかもしれないのに。 プロローグはまさに仰々しく、これから一体何が始まるのかと思わせる感がたっぷりで、想像力豊かな人ならここだけ読んで内容はあれこれ妄想するほうが楽しめるかも			
	9-288	279P (90分)	プロローグの2ページ	2010/06/20 20:03:42
ありす ☆☆☆	己の魂と正義のために天高く刃を掲げよ！ 銀に輝く剣を手に闘うは二人の騎士。自らの矜持と誇りにかけて、自らの、そして夫の命運がかかった死闘を凛と見つめる女性マルグリット。 草食男子のみなさま…武器を手に取れとは言いませんが、闘う男たちの姿を見てみてください。前置きがいくらか長いので、9章だけでも。			

	ぜんぶ	277P (120分)	9章	2010/05/24 22:02:54

chicken-run ☆☆☆☆	歴史への興味を刺激してくれる本 ”決闘裁判”の進行や”決闘”そのものの歴史についての記述も当然興味深かったが、メインストーリーの合間に入る14世紀当時のヨーロッパの歴史や風俗についての記述が最も知的好奇心をくすぐられた この講義が終わったら個人的にここら辺の歴史を調べてみようと思う			
	全部	298P (300分)		2010/05/23 19:54:31

溪華 ☆☆	テーマとして興味深かったので手に取りましたが、読み難く、あまり面白いとは感じず残念です。全体的に中途半端で、強姦に対する女性の反応を描くのならもっと主張を入れてほしかったし、決闘裁判自体について書くのならもっと読者を引き込む書き方をしてほしかった。歴史的に興味深い出来事だったとしても、この本だけ読むと、示唆も何も得られない気がしました。ジャンヌ・ダルクについての伝記の方が面白いのでは？			
	すべて	300P (240分)		2010/05/06 16:36:34

ukayare ☆☆	何と退屈な文章だろうか。大量の敷き詰められた文章は歴史的背景だとか用語の説明だとか言ったそんなものである。多少の感情の描写ももちろんあるが非常にそっけない描写である。 そして自分が一番楽しみにしていた決闘の場面も、後半の３０ページくらいであっさりと終わってしまっている。もちろんその内容は結党中の流儀だとかそういった説明ばっかりであった。多少盛り上がった感はあるが何とも味気なく「えーーーこれで終わりかよ！俺はもっと決闘（デュエル）が見たいんだよぉぉ！」と心の中で叫んでいた。 そしてなんといっても僕はこの作者が何のためにこの本を書いたのかが全く理解できない。ただ今までの歴史本をまとめてみましたーということくらいしか伝わってこない。というのもこの本で取り上げられている決闘は多少疑惑があるのだが作者の見解がほとんど語らえれていない。研究者のはしくれ（というのもはばかれるかもしれないが）の自分でさえ「ふんふんわかった。じゃあお前はどう思ってるんだよ！」と思わず突っ込まずにはいられなかった。事実の羅列なんてのは誰でもできるんだよ！ 少々熱くなりましたが歴史の教科書をのある事件を詳しく知りたい！といった方にはお勧めできるかもしれません。僕はこういうの好きじゃないです。でも役者のあとがきはよかった。というかここだけ読めば大体の内容はわかります。 余談：いちおうこれ訳書だから文化的に肌に合わなかったのかもしれないです。ちょっとこれから訳書は控えていく方向でいこうかなあ・・・			
	全部	277P (300分)	訳者あとがき	2010/04/20 19:48:20

TOPへ

死刑執行人サンソン

著者名	安達正勝	発行年	2003年
出版社名	集英社	ページ数	237ページ
値段	700円	ISBN	978-4087202212
コメント	仕事として人を殺す。その不条理をプロフェッショナルとしての誇りを以て乗り越えていった、たくましき家系の男たちの肖像が、じつにいきいきと提供され、ギロチン華やかなフランス革命の奔騰のまっただなかに首根っ子ごと巻き込まれる。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
nao ☆☆☆☆	最初しか読んでないが、まったく知らない世界の話で興味深かった。 死刑執行人の給料が結構いいことに驚いた。 また、必要悪でありながら社会から侮蔑されることへの苦悩が印象的だった。			
	1－46	46P (30分)	41－46	2010/08/18 13:45:13
サカサカ ☆☆☆☆	この本を読むまで、ギロチンは大量に処刑をこなすために開発された殺人マシンだと思っていた。 しかし、実は人道的な処刑を行うために開発されたという話は驚きだった。			
	all	237P (300分)		2010/08/17 23:01:27
1412 ☆☆☆☆	素人がギロチンを使って処刑するという話が印象的だった。人を殺す事にどれほどの精神力を必要とするのか。自分にはとても想像できない。			
	1-237	237P (180分)		2010/08/04 14:51:04
みぃたん ☆☆☆☆☆	知らない世界を見た。 2%の貴族が98%の民を支配していたとは。 「フランス革命」を、人々が自由と平等を求めて果敢に戦ってきた成果の大きな一歩、としか見ていなかったが、実は人々はいき過ぎていて残酷だったこと、王政が絶対的な悪とは、客観的に言えないこと、ルイ16世がとても善意的な国王だったことなど、フランス革命に対する見方が覆された。 そして、熱心なキリスト信者のシャルル-アンリが、信仰の対象に近い国王を処刑することになってからの、罪に対する苦しみに話が、とても悲しかった。 人々の考えや時代によって、正義ってこんなに変わるものなんだってことと、歴史が無数のこうい			

	うドラマで出来上がってることを思い出された。			
	全部	273P (350分)		2010/07/21 11:24:21

g2oma ☆☆☆	ほんの少し出る、死刑の形が怖くて序章で終わり。死刑を担当する一家が医療にもかかわり、お金を結構稼いだということは面白い。 序章だけだったが、愛に賭けた結果は私には恐ろしいもの。			
	8-46	38P (30分)		2010/07/20 07:37:22

ditherman ☆☆	自分の仕事に自信が持てない人，世の中のためになっているか疑問に思っている人に手に取ってほしい一冊．執行人も同じ苦しみを抱えていたのだから．本当の正義って，ものの見方一つで変わってくる． ギロチンが死刑を増やす機械として，昔から敬遠されて来たのは事実だが，本書のように執行人に焦点を当ててみると，別の見方ができて面白い．死刑を宣告された人は，いずれは何らかの方法で刑の処されないといけないのだから，死刑囚にも執行人にも同時に苦しみを緩和する発明品だと考えると，本当に多くの人を“救ってきた”発明品であり，人類が誇るべきものの一つだと思う．現在はこの時代よりさらにシステマティックに行われているようだが，それが正義だと思う．			
	全部	237P (300分)	ギロチン誕生	2010/07/16 22:20:26

Asagi ☆☆☆☆☆	そういえば、断頭台ができる前、死刑というのは一体どうやって行われていたのか？ その素朴な疑問の裏には、実はこんなにも多くの葛藤があった。 死刑反対とか賛成とかさかんに言われるけれど、じゃあ実際に刑を執行する人はどうなのか？という、 ごく簡単な当事者の議論が抜け落ちていることに気付きます。			
	全て	237P (120分)		2010/07/13 08:12:05

B4たかし ☆☆☆☆	死刑執行人という、他の人々から蔑視される、しかし国を支えるのに無くてはならない職業の話。 多分自分が読んだ「8-58ページ」は、物語の佳境がまあ見えてすら無い範囲なのだけれど。			
	8-58ページ	51P (30分)		2010/07/06 11:44:20

つばくろう ☆☆☆☆☆	死刑執行人の家に生まれると死刑執行人としてしか生きられない。そのことに苦悩する様子、またギロチンができ人が機械的に殺されていく様子などがよく分かった。 ギロチンは残虐で苦痛のない死刑をするための道具であったが、その当時の人にはもう少しいい方法は思いつかなかったのだろうか？ 個人的には死刑になるなら心停止する薬物によって死ぬのがいいなんて思ってしまった。			
	6-241	235P (200分)	４章	2010/07/06 01:47:58

DAIKINエアコン ☆☆☆☆☆	ドキドキした． 2時間近くいたスタバの店員には申し訳ないが，読んでて止まらなかった．中世の死刑執行人というと，文中にもある通り，薬殺ではないもっと直接的な死刑執行のために，とても不気味なイメージがあった．その印象が変わったかといえば，それは少し違うけれど，当然のことながら，彼らもまた人であり，むしろ一般大衆よりも知的な層であったという事実は興味深かった．			
	1-217	217P (150分)	序章-サンソン一家のくらしぶりの項	2010/06/22 00:53:33

江戸川 ☆☆☆☆	死刑執行人について書かれている新書というよりも、 サンソン一家を題材にした小説のような印象。 読みやすく、わかりやすい。しかし一方で深く、考えさせられる。 八つ裂きの刑を微に入り細をうがって描かれた立ち読みポイントは心揺さぶられること必至です。

	全部	237P (120分)	94-102	2010/06/16 13:46:13

マカロニぺんぎん ☆☆☆☆	死刑執行人という特殊な人間が、どのように生き抜いてきたのかが非常に具体的に書かれていてスラスラと読めてしまいました。この本の大筋は、もうすでに他の方が大部分を書かれているのでここでは追求はしませんがゼヒお勧めしたい本であることに違いはありません。 興味深かった点として挙げられるのが、主人公であるサンソンの倫理観です。彼は現在からみれば大分昔の人間です。しかし、作中の彼の物事の考え方や捉え方は今の私たちにとっても理解できるものです。死刑執行人は特殊な職業であるとはいえ当時の一般人がこのような思考能力を持っていたという事には、少し驚いてしまいました。			
	全部	253P (180分)	p.178-p.198	2010/06/15 00:28:31

なかま ☆☆☆☆	ギロチンは死刑囚の苦しみを軽減させるために考案されたと書いてあったけれど、 それは死刑執行人にとっても同じだったのだろうか。 本書を読む限り、ギロチンの開発は一日に殺すことの出来る人数を増やしたし、 死刑執行人の苦しみも救ってはくれなかった。 ギロチンよりもっと「迅速かつ確実に」殺せる機械があるであろう現在は、 死刑囚と死刑執行人はどのような苦しみを背負っているのだろうか。			
	全て	237P (150分)	225	2010/06/08 13:16:14

asce ☆☆☆☆☆	処刑と虐殺は別物であると書かれている節は、処刑は命がけということが事実と共に明確に述べられていて読んでいて衝撃だった。			
	all	232P (250分)	143-155	2010/06/07 17:03:41

7boys ☆☆☆☆	タイトルが衝撃的すぎるので本屋に行って絶対に手に取ることがなかったと思われる本であるが、読んでみて良かったと思う。 死刑制度について考える際には必読の一冊ではないだろうか。 「もっとも残虐な処刑方法が採用されていれば一日１人ですんだところが、人道的な処刑方法があったために、一日に五十人以上、六十人以上もの人間が処刑されることなってしまった」 カラシニコフと同じで、作業が簡単であればある程、殺される人数が増えてしまうというパラドックス。 技術の発展が必ずしも良い方向には向かわないということを再認識し、技術を使う我々の感情こそが世を左右する最も恐ろしい物だと思った。			
	all	253P (150分)	220-230	2010/06/07 13:37:28

橘 ☆☆☆☆	差別と死刑制度がテーマのノンフィクション、と思ってもらえれば。 社会科で世界の差別を教わりはするけれど、 実際の生々しい様子までは教わらなかったり。 序章だけでもその様子は伝わるので、目を通して頂ければ。 死刑制度の廃止を訴えるのは、感情。 人の命を奪ったって、何も解決しないって。 でも、社会的にショックがとても大きい事件では、 「極刑を！」という声が上がる。 憎悪を鎮めるには、それくらいの裁きは必要だと。 これも感情なんですよね。。。			
	序章・終章	60P (75分)	３３ページ ダヴィデ王の言葉	2010/05/30 22:31:08

	自分の職務は正義の行為であると自分に言い聞かせ、自分に信じ込ませなければ、死刑執行人としての尊厳を保てないと悩むサンソンの心情がリアルで良かったです。自分だったらと考えさせられ			

komu ☆☆☆☆	ることがおおく面白かったです。			
	139-217	79P (80分)	184-185	2010/05/25 11:13:10

くま ☆☆☆	フランスの歴史の別の一面が垣間見えて面白かった。			
	1-239	239P (120分)		2010/05/24 21:45:14

chicken-run ☆☆☆☆☆	まるで小説のような歴史解説の本 この本は歴史を解説する本であるはずなのに、やたらと「…とサンソンは思った」とか「…みたいな様子だった」といった感じの記述が多く、正直どこまで内容を信じていいのか疑問である しかし、そういった記述を用いているが故非常に読みやすく、また当時の世相や人物に感情移入しやすく、読書を楽しめるという観点から見てポイントが高い本だった			
	全部	237P (240分)		2010/05/23 20:10:09

Apollo ☆☆☆☆☆	この本は、フランス革命を生きた死刑執行人の話です。 当然、死刑執行の話が出てくるので苦手な方は要注意です。ですが、死刑執行人が死刑をどのように考え実際にどうしていたかがわかる貴重な本だと思うので、一読の価値はあると思います。			
	1-239	239P (120分)		2010/05/18 17:36:31

k.k.t ☆☆☆☆	授業でも少し話題に上がっていたので手に取ってみた。物語チックなのでスッと頭に入ってきてとても読みやすいい本だと思う。また死刑執行人という職業が当時どのような身分であったか、またどのような運命をたどっていくのかなどがとてもドラマチックであり、フランスの歴史をまた別の側面から見ることができる本だと思う。			
	1-136	136P (120分)	シャルル-アンリ自己弁論	2010/05/17 21:13:30

スズキ ☆☆☆☆	ONE PIECEのゴールドロジャー処刑にも死刑執行人がいたことに思い至り，感慨深かった. この本は，フランス革命前後，死刑執行人として働いたシャルル-アンリ・サンソンの視点から死刑執行とはどのようなものかを特に心理的な苦痛に焦点をあてて話が進む．とても引き込まれ，一気に読んでしまった. これを読めば，あなたも死刑反対論者に仲間入り.			
	1-239	239P (110分)	178-217	2010/05/12 00:48:44

Unknown ☆☆☆	とりあえず、2章は閲覧注意。 2章を飛ばして呼んでも、この本の良さは薄れない。 人間の残虐さや、サンソンを中心として描かれる差別されるものの苦悩、刑を執行するものの苦悩が細かく描写されており、時には目を背けたくもなる内容であるが、非常に考えさせられる良書である。			
	全部	273P (120分)		2010/05/07 01:01:20

ふり太郎 ☆☆☆☆☆	死刑執行人という肩書きに苦しむ、1人の男の生き様を中心に描かれています。地位の高い身分であり、様々な貴族との謁見ができる一方で、簡単には素性を明かせない一面にやりきれなさを感じました。ギロチン作成にも関わったルイ16世が、時代背景の波に押されて最終的にギロチン処刑されてしまうのはむごいです。			
	すべて	239P (150分)	104-116	2010/05/06 17:30:46

	重苦しい題材だけど、読みやすい。一気に読めます。面白い。

unknowoman ☆☆☆☆	目の前でフランス革命が起こっているような感じです。 それにしても、今の時代に生まれてよかった・・・。			
	すべて	239P (120分)	138-217	2010/04/28 11:06:49

Mr.Crazy ☆☆☆☆	他のコメント見たらギロチン誕生の話に関心を抱いてる方が多いようですが，ギロチン誕生以前にどのような方法で死刑が行われていたかも事細かに書かれています。想像しただけでぞっとするようなひどいもので，それを知った後だとギロチンというものは残酷なものだけれども，刑罰を受ける人に無駄な苦しみを与えず瞬時に死に至らしめることができ，優れたものだと思ってしまいます. 内容が重いのにどんどん読んでいってしまいます。 しかし心臓の弱い方にはオススメしません。			
	1-239	239P (150分)	85-137	2010/04/27 12:46:13

海老ちゃん ☆☆☆☆	「地獄は神様に残しておこうよ」として、残忍な死刑がなくなったら、 今度はギロチンの登場。このプロセスはとても興味深いです。 サンソンらの葛藤は自分にとって測り知れませんが、この本によって少なからずその悲哀を感じることができました。			
	すべて	237P (200分)	1-237	2010/04/26 17:27:36

ありす ☆☆☆☆	自分以外の人間に刃を振り下ろすという点では、軍人も死刑執行人も同じ筈である。 だが、戦場では人を殺せば英雄になり、罪のない人間を100人殺しても正義という名のもとに正当化されるのに対し、死刑執行人は人殺しを生業とすると非難され、その手は血に染まっていると揶揄される。 多くの人から忌み嫌われ、畏れられた職業に携わった歴代のサンソン家当主たちは血に狂った殺人者だったのだろうか？——否、誰よりも死について考え、誰よりも死した人々に祈りを捧げていた。 死刑制度の是非はわからないけれど、考えさせられる一冊。			
	ぜんぶ	237P (85分)	178-217ページ	2010/04/24 11:47:54

chocolate ☆☆☆	死刑制度は今も日本に残っているが、死刑執行人がいなければ遂行されないことなのである。国王一家は国王になり、死刑執行人も同じく家業を引き継ぐ。逃れられない苦しさ。生まれ得たときから決められた運命というものを考えた。 今まで、パリが好きって平気で言えたけど、歴史の重みを知ったら、そういう言葉を軽々しく言えなくなってしまった。 それから、、この本は一人でいるときに読むと悲しくなってしまったので、誰か周りにいるときに読んだ方がよいかもしれない。			
	8-238	237P (120分)		2010/04/23 23:45:09

あるみ ☆☆☆☆	凶悪犯罪者を死刑にしろと叫ぶのは簡単だけれど、実際に殺すことは容易ではない。 人を蔑むのは簡単だけれど、不当な蔑みに敢然と立ち向かうことは容易ではない。 自分は、こんなことを想像すらせずに、漫然と易きに与してはいないだろうか？ ・・・そんな風に考えさせられる本でした。 （上記立ち読みポイント以降は座って読むことをお勧めします。）			
	all	253P (180分)	P1-84	2010/04/20 01:55:24

	小説ではなく、伝記の形をとっているが興味を持って読み進められました。			

まー ☆☆☆☆	ギロチンの誕生が死刑の数を増やした。 死刑執行という仕事をこなさなければいけない事に対する葛藤など厳しい面も記載されています。 ですが読み物として楽しむことができました。			
	1-237	237P (240分)	85-136	2010/04/19 10:13:34

TOPへ

怖い絵 1・2・3

著者名	中野京子	発行年	2007年
出版社名	朝日出版社	ページ数	720ページ
値段	1,800円	ISBN	978-4255003993
コメント	絵は怖い。画家の辛辣な筆が、人の体の醜さを、人の心の卑しさを、これでもかと暴き出してしまうから。 絵は怖い。人の醜さや卑しさをぞんぶんに暴き出した返す「絵筆」で、その絵を描いた画家自身の心に潜む憎悪や偏見をも、容赦なく暴き出してしまうから。 好評につき続編もリリースされたばかり。本編では、ムンク、ゴヤ、ダヴィッドの「マリー・アントワネット」にラ・トゥールの「いかさま師」が、とりわけ怖い。続編では、ブリューゲル「ベツレヘムの嬰児虐殺」、サロメ、そして、ミスター・アルノルフィニの爬虫類の眼。 ぱらぱらめくって、気になった絵のところから中野流のホラー・ワールドへGO!		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
hk ☆☆☆	絵に描かれたものだけではなく、その時代背景など様々な角度から物語を演出しているものの正体を見ていた。 基本情報もあわせて書いてあり、勉強にもなった。			
	1巻 8-43ページ	35P (20分)		2010/08/16 16:17:43
wax ☆☆	絵の怖さについて、時代背景などを踏まえつつ解説している本。 こういう見方もあるな、という感想を持ちました。			
	6-245ページ	235P (80分)		2010/08/11 01:19:43
ドナルド ☆☆☆☆	想像していた怖さとは違い，絵を深く読み取ることで見つかる当時の風俗や神話，聖書の物語などに対し驚きや関心を抱いた. やっぱり絵を眺めるのは楽しい.			
	2巻作品 3,6,10,11,12,14,17,18,19,20	124P (40分)	作品10	2010/07/26 18:28:34
mnts ☆☆☆	提示される絵が怖いかどうかよりも西洋の画家や王族や神話関する知識が得られる点が面白い。 ただ、こういうタイプの本では仕方がないことなのだが、絵に関する解釈を押しつけられているような気になってしまうのがあまり愉快ではない。絵の背景の事実はともかくとして絵自体に対しての解釈は自分が感じることだけで十分だと思う。 とりあえず本書の中で説明されなくとも怖いと思ったのは我が子を喰らうサトゥルヌス。			

	all	239P (120分)	103	2010/07/14 18:46:55

あんのーーん ☆☆☆	時代背景や著者に関する知識が得られたけど、絵自体の解説はあんまよくわかりません。というのも絵から何かを導出って言うのは、解釈人によるばらつきが大きくて、作者が考えていた絵に込めた意とは異なるんじゃないかって考えてしまう。 猟奇的な絵とかは、なんとなく興味深くて逆に芸術なのかも的なよくわからない思いが浮かんだり沈んだりするけど、結局見た後、「良かったー感動したー」とは決して感じないので、多分マイナスな印象なんだと思う。 絵に対して考えてると、よくわかんなくなっちゃったので、総じて言えばお勧めはそんなしません。怖い絵より普通の絵を見てたほうが面白い。			
	all	234P (80分)	作品9,10,12,p197	2010/07/08 01:14:30

sky ☆☆☆	読み終わった感想はこれにつきる。 自分の西洋史や神話、宗教に関する知識が圧倒的に足りないことに対しての苛立ち。何でこんなにも知らないんだろうなと落ち込むしかない。興味はあるんだけどなぁ。 単純に絵画の表面だけでなく、モチーフとなった背景までさらっと読み取れるような人って格好いいなって思う。 ２巻しか読んでいないので他の巻にあるのかもしれないが、日本の絵が無いのはなぜだろう、と考えたところ、最近読んだセリフが浮かんだ。 「日本人は内戦を美化しすぎなんだよ」			
	2巻全て	243P (240分)	2巻196-209	2010/07/05 21:38:04

asce ☆☆☆	戦慄するような、身の毛もよだつような絵を見たくて手にとったのだが、期待はずれだった。 が、しかし画家たちの作品に込めた思い、または意味を時代やパトロンからなんとか「怖い」という解釈に持っていこうとする様は読んでいておもしろかった。			
	2巻all、3巻ロシアの皇女	241P (210分)	泣く女	2010/06/21 14:13:42

yuigawa ☆☆☆☆	ヨーロッパの歴史の影の部分は陰惨で本当に恐ろしい。自分がその時代のその場所に生まれていなくてよかったと思わされるエピソードは多々あるが、その中でもイギリスのジン横町を映画イター枚はまさしく地獄絵図を思わされた。 全編を通して語り口が豊かで、起伏のある物語を読むように進められるが、時たま過剰な印象もあった。少し飽きがくるかも。			
	全部	240P (60分)	188-198	2010/06/20 19:40:49

maaa ☆	いまいち怖さがわからなかった・・・。			
	2全部	240P (180分)	なし	2010/06/18 12:35:19

江戸川 ☆☆☆	絵画にこめられた想いは作者にしかわからない。 それをどのように解釈するのも自由だと思うけれど、 この作者の解説は「怖い」方向に持っていこうとする部分があり、 そこの部分はどうしても気に入らなかった。 逆にそうでない部分はそういう解釈があるのかと思わされ面白かった。 この人はいわゆるまんじゅう怖い、と同じ意味で絵画怖い、と言っているんだろうなぁ。			
	2巻	240P (150分)	163	2010/06/14 16:50:58

	絵画を見たいという人には☆一つ。絵画を他の人にも知ってほしいという人には☆五つ。私は後者ですのでこの評価。

ばっは ☆☆☆☆☆	芸術は精神に異常があると認められる人のほうが楽しめる。私は正常だという考えで入ると表面上の美しい絵や絵の価値にしか目がいかない。 こんな絵が好きな人は異常だ。自分は異常なんかどこにもない。こんな絵は嫌いだ。こう思う人は意外に多い。 目の前で起こる異常を楽しむことによって、現実から乖離して、芸術にのめり込むことができる。 社会福祉？何それおいしいのという人は好きなはず。 かっこいいとかきれいはデザイン。 引き込まれるとか違和感がアートだと私は考えている。			
	一全部	244P (90分)	ムンク(私がファンだから)	2010/06/09 19:09:41

komu ☆☆☆☆	一枚の絵にも背景があり、それらを知っているのと知らないのとでは雲泥の差があることがわかりました。想像力が大切です。 時間があるときに少しずつ読んでいくことに向いている本だと思います。			
	2巻186-209	24P (20分)	194、195	2010/06/08 11:30:42

ぼるてぃー ☆☆☆☆	エッシャーだけ読みました。騙し絵の単純な解説ではなかったです。視覚を用いて、階段が象徴するものを見事に表現しています。これから階段が怖くなります、たぶん。			
	2巻46-56	11P (10分)	２巻55	2010/06/03 20:24:27

くま ☆☆☆	怖い＝神秘的であって、個人的には好きな部類の作品が多かったです。			
	1-245	245P (120分)		2010/06/01 13:04:47

海老ちゃん ☆☆☆	この本では、時代背景や作者の生い立ち、そして宗教上の設定に恐怖の源泉を見出しています。 宗教に疎い自分にとって宗教画は馴染みが薄い。しかしそのインパクトは絶大でした。宗教という、誰にとってもかけがえのない存在でありながら抽象的であるその概念こそ、芸術表現において格好の題材になるんだろうな、と感じました。 しかし一見目で怖くなければ、背景を知ってもやはり怖くはならなかったです。 結局のところ、サトゥルヌスやキュクロプスが夢に出てきたらどうしよう、と単純に反応してしまいました。			
	1巻：6-43,56-88,102-126,139-150	108P (90分)	102-113	2010/05/31 22:28:36

サカサカ ☆☆☆	以前イタリアに行ったときに実際に目で見た絵から読んでみた. 実物を見たときも大きな感動はあったが，この本に書いてあるような深い部分までは考えられなかった. 各章につき1枚の絵に関する解説がついており，興味のある絵だけでも読んでみるといいかも？美術や世界史を勉強したくなる1冊.			
	2巻 128-138,210-219	21P (30分)	210-219	2010/05/25 11:07:40

ditherman ☆	全シリーズに渡って，各章内の説明の流れは一貫している 1枚の絵画を見せる→絵画の背景情報・一般的な解釈を説明→その解釈を覆す情報を提示→同画家あるいは関連の絵画を提示し，さらに追い打ち(一部例外あり)→さあ怖いかい？という問いかけ コメント ・中野は正しい絵の見方を主張するつもりはないようだが(cf.p249)，なぜこの流れで書いた？主張する気満々やないかい！			

	・これだけ多くの怖い絵を解説されると，さすがに流れが読めてしまう．中3日くらいで一つずつ気の向くままに鑑賞したい ・絵画がプリントされているページだけでいいからもっと良い紙質にすればよかったのに．こんなとこでけちるな．絵の価値が下がる			
	全部	249P (200分)	なし	2010/05/20 23:19:12

ボム ☆☆☆	素敵な絵、奇麗な絵ですが、その背景にある話はとても興味深いです！！話を読んだ後に絵をながめると、内なる力を感じます！			
	117-138 と絵	21P (20分)		2010/05/18 13:06:58

ukayare ☆☆☆	ぱっと見怖い絵はあんまりないです。しかしながらその裏にあるもの（作者の経歴や時代背景、またその絵に描かれている一部分）には実は血なまぐさいエピソードあったりする。背景には恐ろしい事実があるというのはよくある手法ですよね。なつみstepをぐぐれ。 とりあえずますあとがきから読んだほうが良かったかもしれない。というもの自分は芸術に関して（というか大体日常的に）結構直観主義なのでこういううんちくは付属的なものであり、芸術に関してはラーメンでいう胡椒、カレーでいう福神漬やラッキョウ程度であると考えているからである。 たしかに歴史は大事である。しかしながらそれがなくとも一見して素晴らしいと思えない作品は素晴らしいと呼べるだろうか？物語で最初の冒頭部がつまらないが最後は感動的なものははたして傑作と言えるのか？10曲ある音楽のアルバムで3曲目まで視聴していい音楽と思えないものが名盤と呼べるのか？後世に残っていく作品というのは、そういう理屈じゃない部分というのが絶対にあると思います。そんな感じで自分の主張と食い違っていました。 あとこういう解説書（？）というのはどうにもあれこれ考えすぎな気がしてならない。本当に絵の作者がそこまで考えて書いているのかと自分は常々思っているからである（まあこれは自分が考えなくいろいろ行動しているからかもしれませんが）。大体芸術かなんてものは感性で生きる生物ではないのか？しかしながら死人に口なし、とはよくいったもので脚色などいくらでもできるのである。そういう世の中って怖い。あの世のダ・ヴィンチさんに真意を聞いてみたい。 でも最近の豆知識迎合の風潮には合ってるんじゃないでしょうか。			
	3全部	252P (170分)	絵の部分	2010/05/18 12:38:57

忍者 ☆☆☆☆☆	正直、今までの人生で絵画に全く関心がなかっただけに、印象に残る作品がいくつも紹介されており刺激的だった。 特にピカソの「泣く女」には衝撃を受けた。 キュビズム？なんて子供のお絵かきかと思っていたけど、よく鑑賞すると写実的なものよりずっとピカソが感じたイメージが直接伝わってくるような気がする。 女の泣き散らす姿、その体験全体を時間的な変化、場の雰囲気を含めて一枚の絵に収めたんじゃないかなと感じた。 「私は対象を見えるようにではなく、私が見たままに描くのだ」byピカソ			
	2巻全部	246P (150分)	16,57,196,233	2010/05/12 03:45:28

たざわ ☆☆	絵を見ることの楽しさがいまいちわからなかったのですが、画家についてや時代背景や色の意味を理解することによって楽しめるということがわかりました。 しかし、中世のヨーロッパのイメージはほとんどこのようなもので、特に怖いと感じたところはありませんでした。			
	1巻34-150,2巻6-116	228P (90分)		2010/05/11 00:53:57

みぃたん ☆☆☆☆☆	とても興味がもてる内容でした。 絵や画家のことだけでなく、昔のヨーロッパの社会のことも知れました。 夜、一人で読むとなかなか怖いです。			
	1巻全て	720P (500分)		2010/05/10 10:33:11

ポチ ☆☆☆☆☆	1巻の初めからドガの踊り子の絵の真実が暴かれて、なんだか一つの小説を読んだ気になれます。著者の博識さに脱帽。 が、「怖い」絵の話だけが続くので、少し退屈するかもしれません。作品数が多いので、好きなところだけ拾い読みするのがいいかと思います。			
	1巻 pp. 6-88, 102-136, 140-162, 202-211, 234-245	153P (120分)	pp. 140-150	2010/05/09 16:19:44

WHISKYMAN ☆☆☆	絵を観るときは、そこに描かれているものを見るだけでは不十分で、作成者の心情、題材の歴史的・文化的背景なども読みとったり予備知識としてもっていることが必要らしい。この本は、それらを作品ごとに丁寧に解説してくれており、名画の面白さを教えてくれる。美術館で本当に絵を楽しむには様々な知識や深い感性がなきゃだめなんだろうなぁ。道のりは長そうだ。			
	3巻の作品6〜12	82P (50分)		2010/05/08 23:12:48

unknowoman ☆☆☆☆	今まで絵の展覧会などに行っても「なんとなく」「先入観なしに」「感性で」「色彩やタッチを見る」だけで、「見たは見たけどよくわからなかった」私ですがこの本を読むと、絵をどのように見ればいいのかが少し分かった気がします。絵にはそれぞれ描かれた時代や地域、宗教や依頼主の面影が色濃く残っていて、この本ではそれらを知識や教養によって読み解いていて、あぁなるほど！と思えます。絵画鑑賞の入門書といえるかもしれません。			
	、　、　すべて	720P (630分)	巻	2010/04/25 14:54:17

溪華 ☆☆☆	見た目からして「怖い絵」がたくさん載っている中で、それらとは対照的な「美しい絵」についても書かれている。本当に怖いのは、「美しい絵」の裏の怖さです。			
	２の1-40,70-81,93-105,130-173,209-233	134P (50分)	129-139	2010/04/22 17:55:18

ｃnd ☆☆☆	前にもぱらぱらと読んだことがあります。 知識を持って見ると絵って面白いなと思いました(怖いというか面白い) 我が子を喰らうサトゥルヌスは衝撃的でした			
	1-162	162P (70分)		2010/04/20 17:46:21

ＴＯＰへ

ファッションから名画を読む

著者名	深井晃子	発行年	2009年
出版社名	PHP新書	ページ数	271ページ
値段	950円	ISBN	978-4569703367
コメント	時代ごとのオシャレさんたち大集合。 どっしりゴージャスな絹のドレスで行くか、さらり自然体の木綿素材か。日傘という小道具だって、バルコニーという場所だって、み～んなオシャレのたいせつな要素なんです。 理想のミューズに、どの時代で出会えましたか？		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
くらげ ☆☆☆☆	数百年後、ギャルが写ってる写真だとか、森ガールが写ってる写真だとかを並べて、大真面目に各々の流行について説明する本が出るのだろうかと考えたら、少し身近に感じました。 絵画だから敷居が高く感じていたのですが、結局は当時の生活の様子を描いたものですよね。			
	1-67	67P (40分)		2010/08/18 23:55:51
かーたか ☆☆	相変わらず、美に対する細かい描写は苦手だが、ファッションと名画の関係を社会的背景から少しは見れたかと思う。もっと基礎的な歴史的知識を持っていれば違った読み方が出来たとも思う。 そして美術館の絵は１回通時的に配置されたものをざーっと中世から現代くらいまで見てみたいと思った。			
	1-38,157-214,243-266	118P (120分)		2010/08/18 12:36:47
布団が敷いてある ☆☆☆	とりあえずいろんな名画が載ってるので読んでみました. 結構いいなと思った絵がたくさんあったので手軽に名画をみるにはいい本なんじゃないでしょうか.			
	流して全部	282P (90分)		2010/08/11 14:34:45
ろしあ ☆☆	ファッションという切り口から、それぞれの時代を映しだした作品の背景を述べている点はおもしろいと思った。 ただ「的確に描いている」とか「画面をしかっりまとめている」とか 絵画素人の自分には？？？なところがあってもっと説明があったらなと思った。。			
	190-242	52P (45分)		2010/07/29 10:23:45

chocolate ☆☆☆	モナリザって喪服着てるんだ！ 絵画の知識は全くなかったけど、有名な絵が出てきて一般知識が学べた。			
	1-68	68P (20分)	16-24	2010/07/28 17:29:20

g2oma ☆☆☆	名画の中の服を見て、人の職業、人柄などを分かるようになることが面白かった！絵をもうちょっと深く見る方法を教えてもらった気がする。			
	99-129,216-242	56P (100分)	104	2010/07/20 07:32:38

ポチ ☆☆☆☆	名画の中に描かれたモードということで、肩が凝らず読めました。最近洋裁に凝っているので、かなり興味深かったです。 どの絵を見ても面白いですが、印象派の画家たちが日傘をさす女たちを描いたpp. 146-147は、午後の日差しを連想させて夏が恋しくなります。			
	pp. 8-72, 100-129, 190-214	120P (150分)	pp. 146-147	2010/07/13 21:42:59

DAIKINエアコン ☆☆	なんとなく拾ってみたのだけれど・・・ 個人的にはやっぱりイマイツでした. 絵画の細部に注視することで，ただ概観するだけでは得られない，画家が潜ませた様々な情報を得られる・・・というのはその通りなのだと思う．今後の参考にしたい.			
	10-40,60-72	50P (40分)		2010/07/01 21:39:40

ditherman ☆☆	コルセットは消えたのか？と筆者は問う. 物理的な器具としてのコルセットは消えたが，肥満に対する異常な意識は“心理的なコルセット”として存在して，残っていると筆者は言う. 寧ろ，心理的なものになることによって，四六時中，拷問器具をつけている現在の方が，ある意味怖いと感じた.			
	全部	271P (300分)	コルセット	2010/06/30 21:30:51

Coppet ☆☆☆☆	個人的には肖像画よりも風俗画の方が要素が多くて楽しいなと思ったり。 ファッションだけでなく、ところどころに歴史的背景が述べられているのが分かりやすくてよかった。 とにかく、風俗画！お勧めです。			
	全部	271P (180分)	40-68、100-129ページ	2010/06/29 01:49:54

富士駿河 ☆☆☆☆☆	最近美術館に行くようになったが、画家やモデルの気持ちを時々考えることがある。しかし、服装はそれほど気にしていなかったと思う。服はあくまでも飾り、という考えが長い間支配的だった。 この本で、数多くの芸術家が衣装を重視していることを知り、後悔した。確かに解説を読むと、何とも言えないような着物に引きつけられる感じがする。 やはり、絵画は知るほど面白いし、美しい。			
	8-156ページ	149P (90分)	40-68、100-120ページ	2010/06/16 14:51:08

つて ☆☆☆☆	ファッションはさまざまなことを教えてくれる。 清潔さ、優美さ、そして自らの財力すら示す。 こういう視点で、今度美術館いきたいなぁ			
	8-156	148P (60分)	1章	2010/06/15 11:41:02

みぃたん ☆☆☆☆	絵を見るとき、ファッションに注目したことがなかったので、新鮮で興味深かった。			
	～38,100~124	60P (80分)		2010/06/09 00:46:22

chicken-run ☆☆☆	絵画について新たな視点を与えてくれた本 この本で少し驚いたのは、絵画の芸術性だとか描写の手法とかについてほとんど言及していないというところ。ただただその情景や服装から読み取れる当時の風俗や流行を興味深く解説しています。 正直私は絵画とかあまり好きじゃありません。美術館とか行ってもろくすっぽ作品を鑑賞せずに素通りしてしまうタイプの人間です。ですが、今後絵画を見る機会があれば、描かれている人物の服装や所持品を見てみるようにしようと思います。			
	全部	271P (120分)		2010/06/08 10:24:07

rs ☆☆☆☆	自分で絵を見るだけではただきれいとか美しいとかしか考えることがないけれども、筆者の視点から見ると絵に隠された意味があり、面白いと思いました。			
	全部	271P (90分)	16-24	2010/06/03 13:03:18

unknowoman ☆☆☆	服に着目することで、絵の描かれた当時の時代背景をよめるというのがおもしろい。画家の感性っていろんな方面に向いているのね、と感心。 ただ、文章の内容が書かれている箇所と絵の配置がなんだかしっくりきてなくて、わかりにくいのが残念。			
	すべて	278P (100分)	149-156	2010/06/01 11:15:34

hk ☆☆☆	絵画を新たなファションという切り口から見ている。基本的な絵画を見る際の歴史的な背景などの説明もあり、読みやすい本であった。絵画もカラーで印刷されており、勉強になる。			
	8-282	271P (240分)	8-282	2010/05/25 12:50:13

たざわ ☆☆	コルセットはつけたくない。 現代に生まれて本当によかったです。			
	216-278	63P (30分)		2010/05/19 13:02:18

溪華 ☆☆☆	飾りつくした後には、シンプルなものが残る。現代の流行も同じようで興味深かった。 しかし、テーマとして取り上げる絵が小さく委細、また全体が載っていない事、そして文章中登場してくる絵が載っていない事があり、その絵を知らないとイメージし難い。			
	8-243	234P (80分)	216-242	2010/04/30 16:13:59

yuigawa ☆☆☆	これまで華やかで目を引く以外の何物でもなかった絵画を新たな方向から切り込む手段を得た感。描きこまれている以上のものが見えたきたとき、その時代や人物への感じ方も変わってくる。個人的にはマリー・アントワネットをめぐる絵画への考察が興味深かった。違う時代違うところに生まれていたとしたら彼女は幸せに一生を終えられたかもしれないのに、という印象が深い。絵画や歴史に興味がある人ならどんどん読み進めることができるだろう。			
	全部	270P (45分)	87-90	2010/04/27 13:15:42

オレンジ ☆☆☆	タイトルの通り、様々な種類の絵をファッションと言う点から見ており、当時の流行や身分によるファッションの違いなどが述べられています。 あとがきで筆者が書いてるように「絵画の鑑賞は見る人に開かれたもの」であり、その考えにしたがって書かれていると言えます。 ただ、個人的にはファッションからみた分析にはあまり興味を持てませんでした。			

	ｐp.8-24,pp.39-129,pp.157-187,pp.279-282	173P (100分)	pp.279-pp.282	2010/04/22 16:59:24

海老ちゃん ☆☆☆	講義名 “服飾史” 名画を交えて、その歴史を柔らかく紹介していただけます。 ハイライトといえる名画解説では、筆者の鮮やかな修辞表現と服飾的知見による鋭い考察が披露されることでしょう。 受講条件はファッションだけでなく、西洋画や文化史にも興味を持っていることではないでしょうか。			
	8-68, 100-129, 158-214	148P (150分)	16-19	2010/04/20 12:32:13

hulk ☆☆☆	名画の見方を新しい観点から提案してくれる．しかも思想・社会情勢云々などから観るのと違って，わかりやすい．昔の人の価値観をかいま見えるので，現代と比較すると面白い．とくにコルセットなんていう歪んだ価値観からの脱却のくだりにも現代との共通性が色濃く感じ取れると思う．			
	pp.7-38, pp.189-282	126P (60分)	pp.215-242	2010/04/20 02:45:09

ＴＯＰへ

暗号解読 上・下

著者名	サイモン・シン	発行年	2007年
出版社名	新潮文庫	ページ数	636ページ
値段	629円	ISBN	978-4102159729
コメント	つくる快感。解く快感。あなたは、どちら側の人間？ おなじみ踊る人形から始まって、鍵を独立宣言に隠したり、エニグマしたり、ナバホ族したり、アリスとボブの公開鍵に、今のはやりは量子暗号。 いやもう、人間ってほんと、カクシゴトが好きなんだなあ、とそのために積み上げられた膨大な努力と叡智の大山脈に惚れ惚れ。あきれつつ縦走ください。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
くらげ ☆☆☆☆	いわがえきうだけ な あけべけし ぬ ふくかみろち あ→い い→う う→え え→お お→あ とした、単純な暗号文。 戻すと「あんごうかいどく の おくぶかさ に ひきこまれた」になります。 こんな単純なのでも気づかれないから、小学生のころ遊んだなあと思い出しながら読み始めました。 暗号文って所詮そんなものばっかりかと思ってました。もう全然違うんですね。解読のポイントは繰り返しと出現確立。 「今度遊んでみようかな」とか思えるのは１巻の前半くらいまで。エグニマでてきたあたりから一般人が手を出せる域じゃないぞ、と思い始め、思考放棄をしかけること幾度。そのたびに丁寧な解説と具体的な例え話に救われて、なんとか最後まで読み切りました。			
	all	636P (400分)		2010/08/19 00:37:14
マシュ ☆☆☆☆☆	暗号解読というタイトルからはあまり想像していなかったような、暗号の歴史について書いてあったのが面白かった。純粋に好奇心がくすぐられる本でした。			
	all	636P (600分)		2010/08/18 16:24:57
nao ☆☆☆☆☆	暗号について、具体的なイメージが持てるようになる本だと思う。関連するエピソードも豊富に盛り込まれており、読みやすい。個人的には、公開鍵暗号が印象に残った。			
	すべて	636P (480分)	下161－183	2010/08/16 21:17:14
	上･下巻を読破し、卒業後は「宝探し」に出掛けようと思います。			

おれ ☆☆☆☆				
	1-99p	99P (60分)	11-19p	2010/08/16 12:39:12

Solar ☆☆☆☆☆	小学生のとき、友達と暗号文みたいなのを作って授業中に手紙とか回してたのを思い出しました。 今思えば相当幼稚なつくりやったけど、当時はかなり熱心に作ってた記憶があります。 そんな私に暗号文とか方陣とか見せたら、そりゃ挑戦してみたくなるじゃないですか。			
	1・2章	179P (200分)	暗号の文字列とか方陣とか。	2010/08/08 15:30:06

ポチ ☆☆☆☆☆	ナヴァホ族かっこいい！ と単純に思ってしまうのも平和ボケな気がしますが、ナヴァホ暗号のくだりは全部立ち読みしてもいいくらいだと思います。 下巻しか手に取らなかったのですが、目次を見て上巻もむくむく読みたくなりました。ページ数が足らなかったら読むのはこの本にしようと思います。（正直）			
	下巻 pp. 9-30	22P (30分)	pp. 9-28	2010/08/03 22:15:47

ドナルド ☆☆☆☆	歴史における暗号の重要性を感じられた．なんかロマンですね．			
	第一章	99P (40分)	31-32	2010/07/31 16:05:40

ditherman ☆	筆者の言う暗号解読の究極論“絶対に解読できない暗号”あるいは“あらゆる暗号を解読する機械”は，“盾と矛”の話を連想させた． 本書は，暗号と作ること，そしてそれを解くことに人生を捧げる者をメインに描いているが，解読者を欺くための“ダミー”の存在も当然考慮すべきで，想像以上に熾烈であることが想像された．			
	上下全部	636P (800分)	VIII	2010/07/08 00:34:43

rs ☆☆☆☆	アメリカ大陸のどこかに宝が眠っている。その宝を示す暗号が未だに解読されていないことが驚きだった。			
	全部	636P (300分)	161-189	2010/06/22 10:57:36

DAIKINエアコン ☆☆☆☆	良い．とても良い． 暗号作りたくなる．もうこういうの大好き． レポートなければ全部読む．			
	1-50?ページ，75-200くらい	150P (75分)	最初から読めばいい	2010/06/22 00:58:04

asce ☆☆☆☆	暗号が言語学、統計から解けるということにびっくりした。 第二次世界大戦時に使用された暗号エニグマ解読の最大の糧として「侵攻される恐怖」と言っていたのだが、科学者なら知的好奇心の方が格好がつくのでは？と思ったが、恐怖の方がリアルで納得してしまった。			
	上all	330P (300分)		2010/06/21 14:39:19

	「第三次世界大戦が起こるとすれば，それは数学者の戦争となるだろう—」

hulk ☆☆☆☆	数学というものは情報を支配するかららしいです．暗号解読のプロセスがすごく数理的であるということに驚きを隠せなかった.			
	pp.1-64	64P (30分)	p.15	2010/06/15 12:53:59

maaa ☆☆☆☆	暗号が好きな人、歴史が好きな人におすすめです。 暗号作成者、暗号解読者の偉大さがよくわかります。			
	上巻全部、下巻9-94	416P (240分)	20-99	2010/06/14 21:20:33

富士駿河 ☆☆☆☆☆	最初に書いてあった通り、暗号は「進化」の一言がよく似合う。 作成する方と解読する方。社会や計算技術という環境の中で、この両者は食って食われてを繰り返し、共に進化していく。最後の量子暗号を読んだ時、内容はよく分からなかったが「もうこれで進化は終わりか」と寂しくなった。 この著者の本に「フェルマーの最終定理」という本があるが、こちらも数学の中に人間の数えきれないドラマがあるのでぜひおすすめ。			
	上11-189、下184-287	283P (230分)	上11-189ページ	2010/06/09 14:54:13

みぃたん ☆☆☆☆	ほんとはもっと読みすすめたかったです。 いろんな劇的なエピソードが書いてあって、飽きませんでした。 暗号ってちょっと怖いとおもいました。			
	～64	64P (100分)		2010/06/09 00:48:16

溪華 ☆☆☆	様々な人が賢明に暗号の作成、解読を行う姿には、学問を突き詰める姿と重なる部分がある。 しかしこうした暗号が、人を殺す戦争や、暗い作戦に使われると思うと、人間の知識は悪なのか、善なのか、考えたくなった。			
	上	636P (240分)		2010/06/01 12:04:58

1412 ☆☆☆☆☆	誰にもとけない暗号を解いたときの気分は最高なのだろう、とこの本を読みながら思った。 あと、この本にでてきたチャールズバベッジさんは他の本でも名前を見た気がする。			
	1-340	340P (240分)	上155-189	2010/05/25 14:42:37

ushiushi ☆☆☆☆☆	暗号の重要性を初めて感じた。これほど歴史につながっているとは思わなかった。 上巻の方がイメージしやすく、歴史的な背景もあって面白かった。 世の中には頭のいい人がいるものだ。			
	すべて	636P (600分)	上巻	2010/05/25 12:38:57

an ☆☆☆☆	身近のようで実はよく知らない「暗号」。 実は結構数学で、理系ものです。 全部読もうと思ったが、とりあえず断念。。 機会があれば続きを読みたい。			
	上、p1-p99	99P (60分)	章	2010/05/18 12:33:23

	未だに解かれていない、宝のありかが示されているというビール暗号。			

江戸川 ☆☆☆☆	筆者曰く、宝は今日の価値にして二千万ドルは下らないとのこと。 夢と能力に溢れ、自信のある人には是非読んで欲しい一節。 この講義がきっかけで億万長者になれるかも！？			
	全部	636P (500分)	上161-189	2010/05/17 09:51:05

g2oma ☆☆☆	暗号を作ったり解いたりする内容より暗号があった歴史、状況が面白かったです。そして、暗号がどう私たちの生活に使っているかを知れば知るほど私が知らなかった世界に足を踏んだ気がしました。 でも、読みながら残念（？）だったのは、 人の発展、暗号の発展には戦争は欠けない部分だったことです。			
	全部	636P (600分)		2010/05/14 09:27:44

忍者 ☆☆☆☆☆	この激動の時代を生き残るには暗号解読くらいできなきゃならないと思って読んでみることに。 そんなに期待せずに読んだけど、読み進めるうちにはまることはまること。 暗号を作って、それを破る手段ができて、さらに複雑な暗号が出来て、それでも見破られて・・・の繰り返しで暗号作成者と暗号解読者の熾烈な争いの歴史が書かれています。 ほんっの僅かな規則性から暗号解読の手がかりを見つ出す地道さ、執念深さはすごい。一部が解読できるとクロスワードのようにすらすらと暗号の全容が明らかになる様は爽快！			
	全部	636P (400分)	2章	2010/05/06 12:29:58

マカロニぺんぎん ☆☆☆☆	― 第一次世界大戦は化学者の戦争であり、第二次世界大戦は物理学者の戦争であった。もし、第三次世界大戦が起きるならばそれは数学者の戦争になるだろうと言われている。なぜなら、戦争の時期平気になるであろう情報を支配するのは、数学者だからである ― 本書の”はじめに”に書かれた上の文に惹き込まれました。暗号解読と言ういかにも難解そうな分野が、素人にもわかりやすく、それでいてドラマティックに表現されていてとても面白く読めました。上巻では暗号がどのように進化してきたかが書かれており、話も段階を踏んで進んでいくため「一気に難しい話が出てきた！」ということもありませんでした。 お勧め度が5でないのは、私にとっては説明が細かくて長すぎるように感じてしまった点。個人的には暗号システムを厳密さはなくとも、歴史のどのような状況でその暗号が使われたかさえ書かれていれば満足でした。			
	上　，，　章、下228-254	283P (150分)	下228-254	2010/04/26 22:48:05

橘 ☆☆☆☆	247ページ（下巻）を見て、ビックリして下さい（笑） 数学が好きな人に特にオススメかな？ 入試のとき整数問題が苦手だった人は「うっ…」となるかも、自分みたく。 そんな方は、下巻の第　，　章をどーぞ。 現代・未来の暗号と社会との関係の話もあるので。 ボーっとしてると、自分のプライバシーがなくなっちゃうという話です。			
	（上）はじめに， 第　章（下）第　章， 第　章	200P (120分)	247ページ	2010/04/25 19:57:29

Apollo ☆☆☆☆☆	解読不能な暗号を作ることに情熱を注ぐ者、その解読『不能』な暗号を解読することに人生を捧げる者、彼らの（多分）終わることのない戦いは紀元前より始まり今も続いている… 俺みたいな暗号ド素人でもわかりやすく読める、お勧めの一品です。			
	上・下巻	608P (360分)	下184-227ページ	2010/04/19 14:09:42

あります ☆☆☆☆☆	「クイズは、作るより解く方が何倍もやさしいんだ。作るよりも、解く方が才能を要するなんてパズルはあり得ない」(島田荘司,『異邦の騎士』) ——本当にそうと言い切れるだろうか。暗号を作る側と解く側、どちらも命がけで取り組む様子は読み手の心を震わせる。ホラー小説でもないのにハラハラさせられ、天才たちが紡ぎだすドラマにワクワクさせられる。 「秘密」というワードに心惹かれる方はぜひ。			
	全部	636P (150分)	下119－120ページ	2010/04/16 23:30:01

TOPへ

戦争広告代理店

著者名	高木 徹	発行年	2002年
出版社名	講談社	ページ数	405ページ
値段	619円	ISBN	978-4062750961
コメント	世論は善悪をハッキリ決めたがる。バルカンの小国ボスニアは、アメリカの広告代理店の力を借りて、敵ユーゴスラビアを悪役に仕立てることに成功する。ほんとうの悪者はいったい誰？		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
上場亮 ☆☆☆	メディアがここまで人間の生活に密着しているだけに、思惑次第で簡単に人間を操作出来ると思う。まず見る側が何に対しても否定的に見ていくことが重要だと思う。			
	1-105	105P (120分)		2010/08/06 15:36:02
オレンジ ☆☆☆☆☆	セルビアをとことん追い詰めていくやり方に不快感を覚えるのは自分が日本人だからなのかもしれない。 世界ではこれが常識なのかなぁと。 本書の中で、「セルビア人たちは、真実はほうっておいてもやがては自然に知れることになる、と素朴に信じる人たちでした。」(p.197)と書かれていましたが、日本人もこのような傾向である気がします。 でも、それじゃだめなのだということがよく分かりました。 JALとANAのトラブルに対する報道の違いや昨年の衆議院選前の執拗なまでの麻生バッシングなどを見れば分かるとおり、報道の差がもたらす影響は非常に大きなものです。 広告・宣伝の重要性をもっと真剣に理解していく必要があると感じました。 一方で、筆者自身がマスコミの関係者なこともあり、ハーフのPR戦略に対して寛容すぎるように感じました。 行き過ぎた情報操作はもっと非難されるべきだと思います。			
	全て	405P (210分)		2010/08/05 16:11:48
1412 ☆☆☆☆	この本の登場人物は情報のねつ造は悪くて、情報を意図的に操作して相手に与える印象を変えるのは良いとしている。自分からすればどちらも真実をねじ曲げており卑劣な行為であると思う。本の内容はおもしろかったが様々な箇所で不快感を感じた。			
	1-405	405P (300分)		2010/08/04 14:57:12

つばくろう ☆☆☆☆	言って得になることは言い、得にならないことは言わない。こんな誰でもやっていることを戦争という場面で効果的に使うことで、両国の運命をこんなにも左右してしまうんですね。			
	14-405	391P (300分)	１～１４章	2010/07/12 21:29:50

Apollo ☆☆☆☆☆	嘘を言う必要はないが、言いたくない事実を言う必要もない。メディアは情報戦における道具であり、使いこなすべきである。 情報操作１つで戦争の善悪どころか勝敗が決まってしまうというのが、ボスニア紛争という事実と共に語られています。			
	1-405	405P (240分)		2010/07/12 20:52:03

橘 ☆☆☆☆☆	研究室でDEATH-NOTEを読み終えました。 ちょっと共通してるところありますよね？ｗ 情報は、インターネットならばコストはほぼないので、FREEの武器。 悪用してはいけないけれども、使い方によっては強力な武器になる。 そういうことを念頭に置いて、プレゼンなどの参考にするのはいいのかもです。 つまり、自分が言いたいことは、 明日の選挙は候補者のPR戦略に左右されずに投票しましょうということですｗ			
	all	405P (180分)	えーと。。。	2010/07/10 22:16:51

あるみ ☆☆☆☆☆	戦争広告代理店。こんなのって、まっとうな人のすることじゃない。人の道に反している。それが、率直な感想です。 だが、しかし。良く考えてみれば、誰だって自分の意見を言う権利は持っている。意見を言うのであれば、それを上手く広く伝えようとするのは当然だし、根拠となる事実を取捨選択して話すのも当たり前。彼らが嘘をついていない以上、その行為に間違ったところはない。 大切なのは、情報を受け取る一人ひとりが、色々な意見や報道を冷静に見つめ、偏った判断をしないことかもしれない。情報には、意見には、必ず発信者の意図が包含されることを気に留めるべきだろう。人を侵略者、虐殺者と罵り、攻め滅ぼせと叫ぶ前にはなおさら、自分の判断の根拠となった情報を慎重に見つめるべきだ。 でも、それでも、メディアから大音量で流れてくる強い意見に、情報に、流されないことなどできるだろうか？ 意見を強く発信できる者の思うように世論が流れる。万人が公平であるために自由であるはずの言論が、逆に不公平を生むパラドックス。もしかしたら人は、この社会は、「言論の自由」を使いこなすレベルに至ってないのかもしれないと思いました。			
	all	384P (180分)		2010/06/29 12:44:25

7boys ☆☆☆☆☆	立ち読みポイントの「サウンドバイト」を知るだけでも有意義かな？ とても勉強になる本。世論を動かして行く様は実に見事であり、それゆえに恐ろしい。アメリカの根底にある価値観と思考回路をうまく使って、片方には正義、もう片方には悪者のレッテルを貼るのである。だいたいアメリカの映画ってそういう構図だけどね。 残念ながら、著者の想定する読者層とズレているため、「○○は記憶に新しい」とか言われても「はぁ？」って感じなのだが、（この紛争はだいたい1990年代前半。リアルタイムで知ってるわけがない。記憶はない。）それでも読む価値はあるし、知らないことを知るという点で知識欲がかなり満たされた。 それにしても、いかに日本にはPR戦略が足りていないか、というのを思い知る。そろそろ選挙が始まるが、政治家がもっと真面目にPR戦略を学べば世の中はガラリと変わるだろう。（日本の政治家は、まずはオバマを見習って「サウンドバイト」の習得をしよう！）とにかく何が言いたいのかというと、この国際社会において、PR戦略が足りないままでは日本はきっと生き残れないだろう、ってことだ。（就活もPR戦略のひとつかなぁ・・・） 戦争を会社としてPRすることが正しいかどうかはわからない。依頼主の国の主張だけを支持して情報を流すお手伝いをすることになるわけで、倫理的にいかがなものか・・・とも思ったが、情報戦に勝たないと生き残れないのだ。そういうことだ。本来は情報に踊らされずに現実を見極めたいところだが、欲しい情報が戦地だったりするとそれは難しいのだろうなぁ、などなど、とにかくいろ			

	いろ考えさせられた。おすすめ！			
	all	405P (240分)	41-50	2010/06/27 18:06:50

ukayare ☆☆☆	やっぱキャッチフレーズって大切だよね。民族浄化バンザイってね。 戦争はでかい金動くからどうしてもこういうようなことになるんだろうなと思ったりします。			
	1-150	150P (100分)	?	2010/06/22 13:01:28

ありす ☆☆☆☆	人が戦争するのはきっと、みんな自分たちの正義と真実を証明したいからだと思う。人の数だけ正義があって、それに対して善悪をつけるなんて本当はできないはず。 人を惹きつけるキャッチコピーに緻密な戦略、人為的に作られた善悪で正義が決められる。 それって、正義はお金で買えるってことじゃないのかなあ。そうしたら、お金がないことが悪になる。お金だけで未来が決まってしまうかもしれない。 そんなの悲しいし、さびしいし、怖い。			
	ぜんぶ	405P (200分)		2010/06/21 22:08:24

yuigawa ☆☆☆☆	題材も登場人物も大変興味深く、黙々と読み進められた（国際関係に興味がないと退屈かもしれない）。 読み進める間もやもやした気持ちがどうにも抑えられず。 ユーゴ問題に白黒つけるなんてことはもちろん出来るわけもないのだが、だがPR会社の存在の圧倒ぶり、徹底ぶり、周到ぶり、まさしく『情報の死の商人』という言葉がぴったりだ。 彼らには彼らなりの正義があるのだということは説明されているが、結局はビジネスに終始している。彼らの正義は非常に恣意的で、つくづく、私たちは恐ろしい時代に生きているのだと考えた。			
	全部	370P (90分)	第九章	2010/06/20 19:48:55

ditherman ☆☆	タイトルも内容もまさに戦争における情報操作の話だけど… “今，この瞬間も，国際紛争はもちろん，各国の政治の舞台で，あるいはビジネスの戦場で，その勝敗を左右する「陰の仕掛け人」たちが活躍しているのだ．” の一文が気になって仕方ない．これが一番伝えたかったことではないか？			
	全部	405P (500分)	なし	2010/06/14 23:12:21

おれ ☆☆☆☆	これはありがちな、いわゆる大国の陰謀論とかではなく、情報がどのように世論を巻き込み、善と悪がどこで分かれたのか。その現場の話。 次世代日本人必読の書？			
	1-131p、386-405p	150P (120分)	1-131p	2010/06/03 12:55:25

k.k.t ☆☆☆☆☆	ある事実について何も知らない人が、片方の当事者からそのことについて聞いた場合、もう一方の情報が欠落しているためにその情報は基本的にバイアスのかかったものになる。 そのことをメディアは十二分にわかっているはずなのだが、そんなメディアでさえも味方にし、クライアントに有利な情報を発進させる“PR企業”というものは興味深く、また一歩間違えば大変なことをしでかしてしまうため、責任も重いものだと思った。 どうやらNHKで放送されたものらしいのだが、映像で見たら惨劇の映像が流れるはずなので、より感情に訴えかける作品でもあるかもしれない。。			
	1-131	131P (100分)	5１ページ	2010/06/01 18:02:15

chicken-run ☆☆☆☆☆	世の中でよく言われる”正義”とか”大義”といったものがいかに曖昧でるかを教えてくれる本 ある物事を判断するにあたって、印象や評判といった情報が果たす役割は大きい。そしてそれゆえに情報操作のプロたちにとって、醜いものを美しく、道理に反することを正しいことのように人々に認識させることはとても容易いことなのだろう こういった情報操作の厄介なところは、そうした認識が曲がりなりにも個々人が自分でつくったものだということであると思う。他人に押し付けられた認識は簡単に否定できるが、自分で判断した			

	（と思っている）ものはそう簡単に否定できるものではない なんだか色々と考えさせられますね			
	全部	405P (400分)		2010/05/23 20:30:14

nao ☆☆☆☆☆	「泣かない赤ちゃんはミルクをもらえない」 この原則の下、一PR企業がボスニア支持の国際世論(特にアメリカ)を作り上げていく様子がテンポよく書かれている。 PR企業一社でこの影響力、日本が外交で勝てないのも納得してしまった。			
	1-384	384P (240分)	206-235	2010/05/18 10:42:33

くらげ ☆☆☆☆☆	戦争は勝った方が「正義」とは良く言ったものだと思うが、近年はグローバル化が進んだことにより他国に「正義」を信じさせた方が戦争に勝てるらしい。 「正義」とはつまり世論。それも当事者たちの世論ではなくて、遠く離れた欧米諸国の世論なのだ。 その世論を勝ち取るために、百戦錬磨のPR会社をお金で雇う。 いやはや、「正義」ってお金がかかるんですね。 アメリカ大手PR会社のエースが、あの手この手でセルビアを悪に、ボスニアを正義に仕立てる。 そのやりとりがとてもドラマチックで、ドキュメンタリー番組そのもの。 時系列純に当時の状況を再現しつつ、実際の取材のやりとりが挟まれる。脳内では字幕付き動画が再現されたほど。 ドキュメンタリー好きにはたまらないですね。プロジェクトX…はさすがに言いすぎかな？ 固い本だと思ったら、普通に面白かった。 まとめると 情報戦争×ドキュメント			
	all	405P (240分)		2010/05/12 16:52:44

牛タン手工業 ☆☆☆☆	報道でよく聞く情報操作という言葉。それが政府でもメディアでもなくPR会社によって行われているのが意外でした。アメリカのような国で本当に世の中を動かすことができるのは政治家でも官僚でもなくPR会社の人間なのかもしれません。 ドキュメントで難しい話だと思っていたけど、吸い込まれるように読んでしまいました。続きが気になるのでまた今度読みたいです。			
	37-180	144P (150分)	67-87	2010/04/19 17:50:48

TOPへ

カラシニコフ　・

著者名	松本仁一	発行年	2008年
出版社名	朝日文庫	ページ数	528ページ
値段	600円	ISBN	978-4022615749
コメント	今、アフリカはどうなっているのか。子供でも扱える銃の普及は、崩壊した社会の暴力を加速する。「植民地のほうがましだった」。第１章「少女兵」の話がつらかったら、第３章あたりから。 そして、アフリカメインだった第１部に続き、第２部は南米のコロンビア・パナマへ、アフガニスタンへと飛ぶ。 人が人をとても手軽に殺せてしまうＡＫ47という武器は、世界をこんなにも荒廃させてしてしまうのか。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
wax ☆☆☆☆	AK47をめぐるリアルな話。 文章もそうですが、何よりも写真がイメージを膨らませます。 日本に住んでいることは幸せなことなんだと改めて感じさせられます。			
	18-268ページ	251P (120分)		2010/08/11 01:32:53
ボム ☆☆	こわくて読んでいて途中で断念しました。 しかも最近地元の駅で銃声のようなものを聞いたので思い出すと怖いです。 想像力豊かな人は読まない方がいいです。			
	1-47	47P (30分)		2010/08/09 15:39:56
まー ☆☆☆☆☆	アフリカの実情を紹介している。 １１歳の少女が３人殺した。 「人を殺せる層」が拡大している。 日本に生まれたのは、凄い運のいい事なんだと思った。			
	1-110	110P (80分)	51-55	2010/08/06 14:59:03
	「あなたのつくった自動小銃が、世界各地で混乱と悲劇を引き起こしている」 と言われたカラシニコフ氏は 「それは銃を管理する者の問題ではないか。」と述べる。 母国を守るために作っただけだと。			

なかま ☆☆☆	おそらく他の兵器も同じなのだろう。兵器に限らず技術も。 多くの「発明品」は、発明者がより良い世界を夢見て作るものだと思う。 しかし、世界が一向に良くならないのは、それらを扱う我々の問題なのかもしれない。			
	第1章、第2章	93P (50分)	36、70	2010/07/20 00:24:48

オレンジ ☆☆☆☆	AK47という銃を軸に、アフリカの実情を紹介した本。 衝撃的な内容はあるものの、いくつかのアフリカの本を読んだ後だったので、ところどころ「またこういう話か…」と感じたのも事実。 同じような話を何回も目にするということは、それだけその問題が根深いということなんだろうけども。 第2章で、AK47を設計したロシアのカラシニコフがかつての敵対国であったアメリカで、ライバルであるアメリカの銃の設計者と対談する話が描かれてました。 AK47を作った当事者の国には一応の平和が訪れたのに、AK47が流れていった国では未だに紛争が続いているという事実はなんとも皮肉なものです。			
	を全て	274P (120分)	第2章	2010/07/16 13:05:28

橘 ☆☆☆☆☆	カラシニコフっていう言葉に最初に出会ったのは、 たしか真保裕一のホワイトアウトを読んだときだった気がします。 当時、中学１・２年生。 何年も経ってこの言葉に再会したことに、変な縁を感じました。 ホワイトアウトのときも、ロシアから日本に密輸されていたもので、 手に入りやすいというのは、きっと本当の話なんでしょう。 製作者のカラシニコフ氏が「国のために作ったものなのに。。。」 と嘆いている姿が、いたたまれないです。。。			
	Iのall	274P (280分)	えーっと。。。	2010/07/10 22:31:51

ushiushi ☆☆☆☆☆	今まで知らなかったアフリカの実情を伝えてくれる本。 今の日本にいるから武力は好きではないが国家の基本が武力であるということを思い知った。アフリカの実情を知った上で自分に何かができるわけではないのがもどかしい。			
		269P (250分)		2010/07/06 17:05:04

Asagi ☆☆☆☆☆	客観的で無機質で、だからこそ重く説得力のあるルポルタージュ。 祖国を守るために開発された優れた銃。誰でも扱えるように、いつどんな時でも扱えるように。 それが流れ流れて、いつしか殺し合いのための凶器になる。 明日の生活を脅かす脅威になり、あるいは強盗や略奪のための武器になる。 武器って何のためのものなのか？ を考えさせられる本です。			
	ぜんぶ	528P (180分)		2010/06/11 12:43:34

chicken-run ☆☆☆☆☆	カラシニコフに萌えてひたすらハァハァする本…ではなくて、 国家が国家たるための条件について考えさせられる本 適当に地図の緯度経度に沿って土地に線を引き、「はい、今日からここからここまでがあなた方の国ですよ」と言うだけでは国というものは形成され得ない。今まさにアフリカの多くの国々が、そういった理由で崩壊しつつある。 著者の言う同心円の発想が非常に興味深く、面白かった。			
	全部	528P (360分)		2010/06/06 23:03:05

DAIKINエアコン ☆☆☆	課題図書「アフリカレポート」をカラシニコフ小銃の流通という視点で書いた感じ. 自分はアフリカレポートを読んだ後に読んだ著書なので，前者で感じたようなショックはなかった. 文章は冗長で，印象的なところ・・・というのは，残念ながら自分にはあまりなかった．ただ，利権争いのために，大国が途上国の一部勢力に武器を大量に支援し，実際に殺し合いをしているのはあくまで途上国内部の人間達であるという事実は，読んでいてなんとなく情けなさと悲しさを覚えさせられる.			
	1-269	269P (180分)	各章をつまみぐい（どこも似たようなことが書いてある）	2010/06/03 01:05:49

WHISKYMAN ☆☆☆	自国防衛のためにある天才によって開発された手入れが簡単で誰にでも扱える銃、カラシニコフ。しかし利便性の裏側には必ず落とし穴がある。それが人を殺傷できるモノであればなおさらだ。従来はプロのみが戦闘に参加することができたが、この銃の普及により女子供を含め「人を殺せる層」が広がってしまった。治安を維持するはずの政府も機能しない。そんな社会で生きていくために自分も銃を所持せざるを得ない。教育システムも崩壊しているので国の将来に希望はない。そんな国は今世界にいくつあるんだろうか。そんな国に対し日本は何をすべきなんだろうか。カラシニコフ銃に翻弄された哀れな人々の生活や想いが描かれているが…あまり知りたくなかった気もする。			
	巻1-190ページ	190P (150分)		2010/05/31 20:14:48

1412 ☆☆☆☆	世界にはこの本にあるような悲惨な所があるのだとよくわかった。しかし、ソマリランドの話には希望が持てるような気がする。			
	1-268	268P (180分)		2010/05/25 14:34:01

つばくろう ☆☆☆☆	祖国を守るという目的のためカラシニコフはAK47という非常に使いやすい銃を開発した。しかしカラシニコフの思惑は外れ、AK47は多くの国で強盗や、略奪、紛争のために用いられるようになってしまった。 優れた技術も使い方を間違えてしまうと大変なことを引き起こしてしまうのだと考えさせられる本であった。			
	上巻全部	274P (200分)	266-268	2010/05/18 21:10:51

B4たかし ☆☆☆☆☆	ナチス・ドイツの小銃によって，祖国が危機に瀕していた. 自動小銃の開発が急がれていた. 青年・カラシニコフは，現場の経験から，壊れにくさに重点を置いた設計を行った. 銃弾と銃口の間はスカスカで，部品点数も少なく抑えた. 極寒のシベリアでも砂塵吹き舞うサハラ砂漠でも，どんな環境でも壊れない，夢のようなライフルが出来上がった. 世界中で1億挺が生産され，現場で今も活躍している. 「プロジェクトX」で紹介されても不思議がないような開発物語である. これがAK-47という，武器でさえなければ.			
	1巻 67-131	64P (180分)		2010/05/18 15:17:20

つて ☆☆☆☆☆	少女は兵隊になった。 AK47（カラシニコフ）。 これさえなければ、もしかしたら、彼女は人を殺さずに済んだのかもしれない。 これさえなければ、少女を兵隊にする、失敗国家は今よりずっと少なかったかもしれない。 そんなことを思わせる一冊			
	I全部	268P (120分)	1、3章	2010/05/18 11:47:16

nao ☆☆☆☆	機械は単純であれば壊れない。 ものづくりの基本だが、実践するのは難しい。泥だらけでも打てる銃＝カラシニコフを作るための逆転の発想、それにもとづくシンプルな設計が印象に残った。			
	1-268	268P (180分)	82-92	2010/05/18 11:02:09

ありす ☆☆☆☆	指にほんの少しの力を込めて、トリガーを引く。ただそれだけで、人が人を殺す。そこには正義も悪も真実も虚実も、なにも介在する間がない。銃口から放たれるのは弾丸かそれとも悲劇か絶望か。 いつかこの銃が世界から消え去る日は来るのだろうか。			
	ぜんぶ	528P (150分)	18-65ページ	2010/05/09 20:05:50

Apollo ☆☆☆☆	「私は３人殺しました」 中学生にも満たない子供たちまでカラシニコフを持たされ戦闘に駆り出される。治安は崩壊し自分の身は自分で守るしか無い・・ ――私たちの知らない「失敗国家」と呼ばれる国々の悲惨な現状がここにはある。			
	、	545P (180分)	の第一章	2010/04/27 18:08:54

unknowoman ☆☆☆☆	１０代の少年少女が１ヶ月以内に使用・手入れをすることができるようになるほど、操作が簡単なカラシニコフ。誰でも使える銃は、雇用のない世界で若者の居場所をつくり、またそれが市民への普及を促す。銃の需要供給を知ることは、世界情勢を知ることにもつながるだろう。			
	上268,下1-192	460P (450分)	上巻前半	2010/04/21 15:40:04

7boys ☆☆☆☆	私はマシンガンを撃ったことがある。 その時に強く感じたのは「これは人を殺すために作られたのだ」という事実だった。 カラシニコフが作った「AK47」という優れた銃は、確かに彼の母国を守るという目的を持っていたし、その目的のために使われたのだと思う。しかしそれは人を殺す武器を作ったことに等しい。 銃の無い社会に生まれた私たちには想像のできない日常がある。銃という殺戮武器の恐ろしさを改めて感じる一冊。			
	の第一章と第二章（最初～110ページ）と	110P (80分)	第２章（特に68-75ページ,103-107ページ）	2010/04/16 18:32:15

maaa ☆☆☆☆	アフリカにすむ人々の生活と、それに対して銃がどのように影響しているのかがわかりました。			
	カラシニコフ　全て	280P (190分)	18-65	2010/04/14 19:44:04

ＴＯＰへ

オバマ大統領就任演説

著者名	DVD版	発行年	2009年
出版社名	ゴマブックス	ページ数	92ページ
値段	1,980円	ISBN	978-4777112623
コメント	まずは、そのあざやかなパフォーマンスを堪能してみる。 つぎに、どんな話題、言葉が選ばれ、どう構成されて、かくもみごとな、エモーショナルな演説になったのかを分析してみる。 そんなふうに二度は楽しみたい逸品です。 私にとっては、くりかえしくりかえし、歴史が参照されることが、やはり印象的でしたね。endured the lash of the whip～ムチの痛みに耐え～と黒人の苦難をもほのめかしつつ、Gettysburg(南北戦争） Normandy(二次大戦） Khe Sahn(ヴェトナム）。 演説ラストで語られる建国の苦難はin the coldest of months～一年でいちばん寒い月～のできごととして語られ、それが in this winter of our hardship～我々が直面している困難な冬の時代～へと重ね合わされ、聴衆たちが立つのも1月の寒い屋外モール。計算しつくされたシンクロぶりは、さすがです。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
kyk ☆☆☆	一国の人々を率いるリーダーとして やっぱりパフォーマンス能力は必要ですね！！ 印象的なキーワードをだして伝えて行くことが大事だと思いました。			
	全部	92P (30分)	全部	2010/08/18 15:35:28
yuigawa ☆☆☆	かつて周囲（アメリカからの留学生・帰国子女が多い環境だった）が大いに心動かされていたのを思い出したので借りてみた。 語り口がぴりっと引き締まっていて、プロフェッショナルの力強さと気迫を感じるなぁと思ったものの、そこまで入り込めずにいたのはこの人が私の国の代表ではないからだろう。 オバマ大統領の出現でアメリカ人は本当に夢を与えられただろう。それを想像して、漠然とうらやましくも思う。最近のアメリカ人の目にうつる大統領の姿が変化しているのだとしたら、その心境が気にかかる。			
	全部	92P (60分)		2010/08/13 05:07:01
ピアノはじめました。 ☆☆☆☆☆	オバマさんのプレゼン技術を盗もうとDVDを見ました。 印象に残った点は、一文、一文が短いから、聴き取りやすいということ。そして、オーディエンスのリアクションをよく見ている。例えば…市民が拍手をしだしたら話すのを止め、市民の気持ちを受け入れた後、また力強い表情で話し出すなど。 まだまだ勉強になる点はあるはずだと思うので、			

	改めて購入して何度も観たいです！！			
	全部	92P (60分)	DVD	2010/08/12 18:52:11

k.k.t ☆☆☆	普通に英語の勉強をした。でも日本の総理大臣の演説よりは数倍カッコイイ。			
	全部	92P (120分)		2010/07/19 21:33:13

あんのーーん ☆☆☆☆	言語で分からないところがあっても、なにげに鳥肌が立つ場面も。 噛むこともほぼなく力強い演説にスピーチ力のうまさが伝わりました。 あとやっぱりリスニングは難しいですね。練習すればできるようになるのでしょうか。Yes,we can.			
	all	92P (60分)	DVD	2010/06/15 15:05:24

chicken-run ☆☆☆☆	「Yes, we can!」な本 昔から演説の文化があるアメリカだけに、大統領の演説はほんとうに凄い。ちょっとした間の置き方から発音、単語の切り方まですべて計算されているというのだから驚きである。疑問を持たれる方はぜひ一度読んで、見て、聞いてください			
	全部	92P (60分)		2010/06/06 23:19:51

かずT ☆☆☆☆	オバマの大統領就任演説の部分だけ読んだ．これを聞くだけでアメリカという国の根幹が分かる．アメリカは歴史的に「若い」国であり，先祖が移民してきたときにはじまった「旅」の過程に今があるというのが印象的だった．			
	1-39	39P (120分)	1-39	2010/06/05 14:19:07

ボム ☆☆☆	Yes,We Can!! 記憶に残りなおかつ説得力のある演説だと思う。			
	1-63	63P (60分)		2010/05/31 23:04:02

komu ☆☆☆☆	相変わらずいい笑顔ですね。 単語は自分にとって難しいものが多く飛ばしてしまうことも多々ありましたが、和約のおかげで雰囲気は伝わります。政治家には信念が必要だということを改めて強く感じさせられました。			
	3-63	61P (60分)		2010/05/25 12:17:58

たざわ ☆	なぜ、オバマ大統領が人気があるのかそこまで理解できなかった。 残念。			
	3-39	37P (60分)	大統領就任演説	2010/05/19 00:22:46

ditherman ☆☆☆☆☆	文句なしの5星 ・DVD見てオバマファンになった．演説で感動したのはMLK以来か!? ・奥さんと娘の事を言った時鳥肌立った．ハンサムで家族思い．言うことないよぉ ・和訳は綺麗な意訳になっていて読みやすい ・DVD流しながら読むのがオススメ．超絶画質!! ・理解できん奴はほっとけばいい．が，オバマの良さだけで星5つ持っていった感じ．スピーチが洗練されすぎていて，手を加えた瞬間汚れるのは見え見えだからあえてこのスタイルだと理解した			
	3-94	92P (300分)	全部	2010/05/18 18:07:39

溪華 ☆☆☆	[If there's a child on the south side of Cicago・・・If there's a senior citizen somewhere who can't pay・・・] 宮沢賢治を思い起こさせます。 「I am my brother's keeper,・・・」創世記からの言葉です。Cainをブッシュに例えているらしい。 演説の中に組み込まれた意味が、それが一層この演説の奥深さを引き立たせています。アメリカの文化や社会背景が分かればもっと感動できるんでしょうね。 ただし、日本語で読むと伝わってこないかも。			
	3-95	93P (30分)	70ページ	2010/04/27 15:30:15

ひまじん ☆☆☆	米国オバマ大統領の大統領就任演説やその他の演説の全文と日本語訳が掲載されています。英語の勉強も兼ねて全て読みましたが、大統領就任演説に関しては、観念的な内容や比喩も多く、自分の英語力では難しく感じました。その他の演説に関しては、オバマ大統領の生い立ちや政策について知ることができ興味深かったです。付録のDVDが字幕付きで面白い。			
	3-94	92P (120分)	62-63	2010/04/25 23:01:13

オレンジ ☆☆☆☆	就任演説の最初のパラグラフにいきなりtrustという言葉が出てきます。 どっかの誰かさんのtrustとは重みが違うなぁと感じました。 立ち読みポイントは、勝利演説でマケイン候補の健闘を称えた箇所。 日本もこういう風になってほしいものですね。			
	3-94ページ	92P (90分)	45ページ	2010/04/20 12:09:06

TOPへ

ルポ 貧困大国アメリカ　・

著者名	堤 未果	発行年	2008年
出版社名	岩波新書	ページ数	409ページ
値段	700円	ISBN	978-400431126
コメント	サブプライムに不法移民、所得格差が拡大するいっぽうなのは国家がそう仕向けてるから。ワーキングプアはイラクで傭兵と化す。テロより怖い民営化。 ぱんぱんぱんと立て続けに見せられて、ここまでヒドいのか、と唖然。ちょっと片方の局面を強調しすぎだとは思うものの、そのぶん主張はわかりやすい。それがベストセラー街道驀進の理由か。 そして、これが日本でベストセラーになるのは、明日は我が身の危機意識か、それとも、やあいアメリカン・ドリームも崩壊してるんだと野次馬的いい気分になれるからか。 などなど、いろんな読みを引き受けられるパワフルな話題本。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
kyk ☆☆☆☆	小さな政府、資本主義ってこわい・・・ 『絶対貧困』や『物乞うブッタ』の裏側の世界の貧しさを痛感しました。 これが「格差社会」ってことなんだろうか。			
	全部	207P (120分)	100-141	2010/08/18 23:44:53
nao ☆☆☆☆	教育、医療、年金、刑務所において、弱者を食い物にする構図がわかりやすく説明されている。特に、刑務所の部分は、悲惨すぎて若干信じられなかった。			
	1－210	210P (120分)	156－195	2010/08/16 20:36:06
wax ☆☆	アメリカの人たちは肥満体質で、 さぞかし裕福な生活をしているんだな、と思っていました。 この本を読むまでは。			
	1-201ページ	201P (120分)		2010/08/11 01:43:39
1412 ☆☆☆☆	日本もこのような状況になるのだろうかと思いながら読んだ。途上国のルポとはまったく違う物だった。			
	二巻1-207	207P (120分)		2010/07/27 11:46:24

ポチ ☆☆☆	刑務所ビジネスの章からあとがきまで読みました。 途中で「あれこれって筒井康隆の小説だっけ」と表紙を見直すこと数回。 この本がこんなにも売れるということは、それまで日本がいかにアメリカを崇拝していたかを表しているようで、ちょっと怖いな、と思わせられます。			
	II pp. 156-216	61P (50分)		2010/07/23 20:37:51

7boys ☆☆☆☆	教育と医療は民間じゃダメ。 アメリカの政策の欠点が詰まった本。 お金があれば何でもできる国ならではの利点もある。 しかし、アメリカには住みたくない、そう思った。			
	all	207P (100分)		2010/07/20 12:31:41

RKJK ☆☆☆	二巻があるということにこのページを見て気付いた。 ところどころ貧困と関係なしに自業自得なだけの話とか 単なる詐欺話とかで感情に訴えかけるのはいいけど ちょっとやりすぎというか貧困関係ないじゃん 目的ありきの本だからしょうがないとはいえ いまいち公正な視点に欠けてる気がする 著者のいうジャーナリズムはそれでいいのかなぁ			
	一巻	200P (100分)		2010/07/20 12:20:16

サカサカ ☆☆☆☆	大抵の日本人はアメリカと言われると，自由の国である，というイメージばかりで，実際のところはよく分からないと思う．僕もそんな中の一人だったが，この本を読んで，その裏側では様々な問題が起きていることを知った．しかも，日本では考えられないようなスケールの問題が．4章の刑務所ビジネスは衝撃的だった．			
	II 1-24,156-216	84P (50分)	156-195	2010/07/03 14:51:47

オレンジ ☆☆☆☆	アメリカが抱える何となく聞いたことのある問題をかなり細かく具体的に知ることが出来ました。 特に　の3章で出てくる医療の話は比較的タイムリーな話題なので、面白かったです。 この講義でアフリカや中国などの情勢の本を何冊か読みましたが、それに負けないぐらいのアメリカの状況には驚くばかりです。 むしろ世間では「自由の国」と言われているのにこの状況なのですから、貧困層の絶望はアフリカや中国のそれよりも大きいのかもしれません。 過度な民営化や規制緩和など、自由を求めすぎるあまり、逆に自由がなくなってしまったのは皮肉なもんですね…。 これだけ多くの人口を抱えている以上、問題解決には時間がかかるのでしょうが、何だかんだで世界にはアメリカが必要だと思うので、真の自由の国を目指して頑張ってほしいと思います。			
	全て	409P (200分)	の3章	2010/06/29 12:56:18

ろしあ ☆☆☆	アメリカ経済は移民によって支えられている。 アメリカンドリームを夢見てきた人々は甘い勧誘の罠にはまり、不法移民とされている人々は足元をみられる。 やはり、アメリカの格差社会の根底にあるのは人種差別だろうと思う。			
	1-92	92P (80分)		2010/06/29 09:05:39

	「スタバまだこんなことやってるのか。。。」 と193,194頁を読みながら思いつつ、 そういえば、自分のプロフィール写真がスタバでした。

橘 ☆☆☆☆	エピローグに出てくるナオミ・クラインさんの本は、 「NO LOGO」という反ブランドを主張するものを読んだことがあって、 そこではスタバが原産国からコーヒーを安く買い取り、 先進国で高い価格で売っていたことを紹介していました。 クリーンなイメージがあるような企業でも、裏があったりするんですよね。 読んでみて、最近の日本の政治・マスコミがバカバカしくなった、 というのが率直な感想でした。 アメリカは二極化が重度に深刻化していて、 生死の瀬戸際と言ってもいい方もいる位に切羽詰まっているのに、 日本はいつまで与野党間の足の引っ張り合い、 マスコミを含めた首相降ろしを繰り返すんだろう、って。			
	プロローグ，第４章， エピローグ	65P (60分)	198-200	2010/06/17 06:40:23

chicken-run ☆☆☆☆☆	日本に生まれて本当に良かったと思える本 ”自由の国”アメリカは最早死んでしまったのか？それともこれがマルクスが言うところの資本主義終焉の形なのだろうか？ マネーゲームと利潤追求に終始した挙句、着実に社会が崩壊しつつあるアメリカの様子が如実に記されています。 第2巻を通じて言われる、「教育」と「医療」という国の未来に直結する部分だけは、金儲けの場にしてはならないという信念が強く心に残った。			
	全部	409P (200分)		2010/06/15 03:01:28

ditherman ☆	“疑いたくなる”，“衝撃”などのコメントが多いからどれほど斬新的な内容かと思って読んだが，よくある内容だと思った．アメリカの歴史を少し知っていれば当然のこと．これだけ若い国が短期間で世界一の大国になったのだから，全部が上手くいっているはずがない． 自国をみつめなおすいい機会を与える本だと思うけれど，わざわざ書くほどのことでもない．			
	全部	216P (250分)	なし	2010/06/14 23:25:26

みぃたん ☆☆☆	外から見たら全然分からない、アメリカの内側をはがしてみせてくれるみたいだった。 子供に運動させて、チョコレートミルクをわざわざ売るとか、 驚くほど空回りしたことをしてるんだなー、と思った。 よくないよくない。			
	~97	97P (120分)	コラム（短くていい）	2010/06/09 00:58:41

rs ☆☆☆☆☆	4章の内容が衝撃的でした。こういうのを読むと改めて日本は住みやすい国だと思いました。			
	全部	216P (90分)	4章	2010/06/08 10:46:08

ドナルド ☆☆☆☆	貧困による肥満，貧困な学生を狙った徴兵制度，高利貸しと変わらない政府の学生ローンなどなど，こんなことが本当にアメリカで起こっているのか？と疑いたくなるような話が続きます．ただの憧れだったアメリカに対する見方が，少し変わりました．			
	1-33, 99-143	77P (50分)	24-27	2010/06/07 18:42:12

k.k.t ☆☆☆☆	第４章は囚人労働の話で、刑務所の中では発展途上国の賃金よりも安い労働力が存在し、そのような人々は負のスパイラルから抜け出せないというものだった。 この流れで市場の効率主義を暗に否定しており、そこは僕は反対なのだが、それでもやはり政治の介入の仕方のいかんでは市場はかなり歪められてしまい、それはとても恐ろしいことである。 炊き出しぐらいしたっていいじゃないか。			

	の第４章155-196	42P (25分)		2010/05/31 19:27:24

maaa ☆☆☆☆	この本を読んで、アメリカという国が豊かとは思えなくなりました。 日本という国に生まれて生活できることが、素晴らしいと感じられるようになりました。			
	1全て	207P (200分)	11-33	2010/05/24 09:49:29

ぼるてぃー ☆☆☆	この本に書かれている多くの人々の姿は、ごく普通な生活をしてきた人たちのはず。その姿が書かれているからこそ、本当にそうなの？と疑いを持ってしまう。実際の姿がどうであれ、今生きているアメリカ国民をみる１つの見方としては面白い。			
	1-10,12-41,62-70,81-93,197-210	76P (40分)	12-41	2010/05/18 18:58:03

くま ☆☆☆	ハリケーン・カトリーナの大災害の裏にこんなことがあったとは。 ショックを隠せません。			
	35-62	28P (40分)		2010/05/18 10:08:54

Solar ☆☆☆☆	内容の割には、読みやすい本でした。 特に3章に惹かれました。 医療保険の民営化。 民営化のフレーズは各所で聞いてきたけど、こんなものまで民営化されていたのか、が第一印象。 医療費が高いからおいそれと医者に診てもらえない。 だから、市民は病気を我慢する。 だが、我慢は続かない。 市民には払えないほどの医療費がのしかかってくる。 もちろん全てが悪ではないけど、「民営化」すれば何でも良いと言うわけではない。そんな、ある意味「当たり前」なことを教えてもらいました。 も読みたいと思います。			
	ぜんぶ。	207P (180分)	3章	2010/05/14 23:50:36

くらげ ☆☆☆☆☆	とりあえずアメリカの学資ローンの章だけ読みました。 なにこれ怖い。 ・元々は国が管轄していた非営利団体。(完全に営利団体になってることを多くの人は知らない) ・大学のアドバイザーも勧めてくれる。 ・シェアナンバー１ なんかもう安心して借りちゃうじゃないですか。 教育関係ってだけでなんとなくホワイトそうだし。 ところがどっこい、全然甘くないのね。やることは高金利貸しと変わらない。 卒業時に38,000ドルだった借金が、４年後に80,000ドルになってるってどういうことなの？ 家族や職場、恋人にまで執拗に電話するなんて闇金みたい。訴訟しようにも、学資ローンに対しては消費者保護法が適用されません。 ちなみに社員は「借り手に対して正しい情報を与えた社員がいれば、直ちに解雇すること」と言われているらしい。もうブラ…ry まぁ偏った面はあるんだろうけど、それにしたって唖然とする話ばかり。 怖いよー怖いよー。			

	自由の国の影＋「とにかく恐ろしいんです！」な空気			
	1-60	60P (40分)	41	2010/05/12 19:45:13

ばっは ☆☆☆☆	懐かしい食べ物がいっぱい。これ食っていて今でもやせ形な自分の遺伝子に感謝。 ピーナッツは高カロリーなので学生の味方です。カロリーオフとか逆につらい時がある。なんか損した気分になる。 文章は読みやすく本の完成度は高いけど、テーマがイメージしづらいから万人受けしない本なのかもしれない。			
	1-64	64P (20分)	ファーストフードの写真	2010/05/11 11:51:56

つて ☆☆	大学での学費が返せない！ そんな米国の現実を描いたルポ。少しセンセーショナルな書き方をしすぎているのでは？と思う。			
	1-101	100P (50分)	1章	2010/05/11 11:35:19

かずT ☆☆☆☆	公教育が借金地獄に変わる 学生はローンの支払いに困窮し，学校間格差はひろがり，高齢者は高額な医療費の負担に苦しんでいる. 超階層社会のアメリカが抱える負の側面を描き出す. オバマはアメリカ国民の期待に応えられるのか.			
	1-101	101P (150分)	11-60	2010/05/10 21:34:22

Apollo ☆☆☆☆	過度な自由主義と民営化によって様々な弊害が起きている。法外な医療費を払うことができずに破産する中間層の人々、学費や奨学金ローンを返せずに借金漬けになってしまった学生たち、ハリケーン・カトリーナの災害から復興するどころか見捨てられてしまった住人・・・そして彼らは民営化された戦争へ「派遣社員」として送り込まれる。 自由な国アメリカにおける格差の拡大と貧困層の増加の実態に迫った一冊です。			
	1-200	200P (90分)		2010/05/06 15:06:40

WHISKYMAN ☆☆☆☆	自由の国アメリカのダークサイドについて。ごく普通の生活を望む多くの人が、ちょっとしたことから頑張ってもどうにもならない状況にはまっていく仕組みがわかった。民間企業の営利主義が行きすぎるとここまで恐ろしいことになるのか…世界一の経済大国であってもこのような格差と貧困に苦しむ人々が多いわけで、日本に住む自分としても全くの他人事とは思えない。			
	1-60,155-216ページ	122P (100分)		2010/05/04 22:07:04

つばくろう ☆☆☆☆	アメリカと言えば自由主義の国で皆がアメリカンドリームを信じ明るくすごしている国というイメージがあった。 しかし現実には、行き過ぎた自由主義のせいで極度の二極化が進み自給５ドルで働き、ジャンクフードしか食べられず、病院にも行けず、学費免除のため軍隊に入るしかないという人が増加しているということが分かった。 最近日本でも格差、格差と叫ばれているがこの本を読んで日本の格差はアメリカの格差に比べたら全然マシなものだと思った。			
	1-207ページ	207P (150分)	1-200ページ	2010/05/04 16:12:32

	社会として最低の社会とは、「問題が出てこない社会」である。 個人主義を貫くとどうなるのか。「一人ひとりに合致した教育体制、望む分だけ選べる社会保障、

弟子 ☆☆☆☆	自分に合った好みの治療法に納得がいくまでのインフォームド・コンセント。もちろんその分だけお金はかかりますが、あなたにあった最高の生活を保障します。」漱石先生には申し訳ないが、日本はこのまま集団主義を貫いてほしい。たとえ集団教育・公的年金・国民皆保険であったとしても、結果としてのそれが社会福祉全体の向上を招くことはこの本のアメリカを見ると明らかである。 ただこの本、あまりにも問題部位の切り入り方が鮮烈過ぎて、どうにもリスクリターンのリスク部分だけを見せられている感じは否めなかった。			
	II all	216P (60分)	第3章	2010/04/30 17:52:50

komu ☆☆☆☆	いつからか日本でも「自己責任」という言葉を良くきくようになりました。それはおもに株式投資の際といった限られた場面に用いられているように思いますが、この言葉の本場であるアメリカでは、社会の根底にこの思想が流れているように感じさせる内容でした。			
	63-95、100-190	212P (80分)	83-85	2010/04/27 12:02:55

富士駿河 ☆☆☆☆	読めば読むほど扇情的な衝撃に、すっかり心が折れてしまった。最後の１０ページがせめてもの癒しだった。 ここ最近になってアメリカ文化を日本は真似するな、という話をよく聞くようになったが、それどころの騒ぎではない。タイトルの通り、貧困に苦しむ人々が増え、戦争に加担することも普通に起こる。 ブッシュ政権や民営化、大企業の支配をこれでもかと攻撃している内容だったが、もっと大切なのは、アメリカをはじめとした国民が主体となり、国や社会を動かし、全ての人のQOLを向上させていくことだと思う。それこそ、リンカーンが演説で発したあの言葉のように。 日本中でベストセラーとなったが、翻訳して全てのアメリカ人にも読んでほしい。 ２冊目も読もうと思います。読んだら、また書き足します。			
	1冊目 1-200ページ	200P (120分)	1-190ページ	2010/04/24 22:45:32

なかま ☆☆☆	学資ローンに関しては、身につまされる思いです。 ただ、切り方が極端なように思います。きっと、著者が9･11に遭遇したということが大きいのでしょう。反戦、ブッシュ批判、新自由主義批判が感じられます。リーマンショック後の今となっては、少々タイムリー感に欠けるかも。			
	100-143	44P (30分)	129-138	2010/04/20 17:58:28

yuigawa ☆☆☆☆☆	アメリカは大国である。陰りやゆらぎが目につくようになっても依然としてそれは変わらない事実だ。だからこそ、その社会にひそむ病理は根深く広大だ。ロビー活動の弊害や政府と企業の癒着問題など、立ち向かうすべさえ一見してわからないことに恐怖を感じた。アメリカと関係が深い一国としても、同じ高齢化・社会福利厚生的な問題を抱えた国としても無視できない事実が端的に述べられている。著者の視線は真摯で、好感が持てる。			
	1-216	216P (60分)	104-128	2010/04/20 14:57:01

B4たかし ☆☆☆☆☆	「医療も自己責任で！」と言い続けた結果、低額所得者向けのサポート薄の保険か、不様相向けの高額な保険しか無くなってしまったアメリカ。…この言い方は決してオーバーではない、「就職すると保険対象外になっちまうから、元気だけど無職」なんて人が出てくる。 アメリカ医療の実態を、センセーショナルに、且つテンポ良く次々とデータ付きで提示してくる。暗くてまじめな話題だけれどドンドン読めるので、☆5つとさせていただきます。			
	63-98ページ	36P (90分)	74-77	2010/04/20 10:27:24

chocolate ☆☆☆☆	アメリカは自由な国という漠然としか思っていなかったが、格差の増大により弱者が苦しめられていること、国民保険がないため医療費が高額であること、そして何よりショックだったのが、軍隊で働いている人は民間会社から派遣され来ているということである。自衛隊としてというより、ただただ明日の生活のために戦地へ行かざるを得ない状況があるのだ。そしてそのような弱者をうまく利用している政府というのが納得いかない。			

	アメリカの見方が変わってしまった。			
	1-214ページ	214P (90分)		2010/04/20 00:05:37

溪華 ☆☆☆☆	教育ローンの借金、医療難民にサブプライムローンなど多くの問題の中、オバマに求めるのは「チェンジ」ではない。「オバマを動かせ（Move Obama）」という新しいスローガンの下、自分たちで働きかけ、活動しなければならない。 アメリカ同様政権交代を果たした日本もこれからどうなるのか、考えさせられる。			
	1-103,197-211	116P (40分)	11-60	2010/04/18 15:40:13

ＴＯＰへ

金融大狂乱

著者名	ローレンス・マクドナルド＆パトリック・ロビンソン	発行年	2009年
出版社名	徳間書店	ページ数	388ページ
値段	1,890円	ISBN	978-4198628130
コメント	責任者出てこい！ 叫びたくもなるよね。 そこで、この就職難の災厄の、いちばん核心部にいたリーマン・ブラザーズさんをお呼び立てしてみました。 うん、たしかにオレはあそこにいたさ。でも、ムチャやって暴走したのはワンフロア上にいた連中だよ。オレたちは危険を察知してやめろって言ったのに。 当事者にして、この弁。トレーダーさんたちって、とことん懲りない種族のようです。「わたしたちは彼らから盗んでるのよ」（177ページ）、うれしそうに臨席のジェーンがささやいてくるトレーディング・ルームに、あなたは座りたいですか？		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
hulk ☆☆☆☆	リスクを作って，そのプレミアムをいただく．自らの利益のために世界中にリスクをばらまいた彼らではありますが，彼らも自爆するようなバカでないはずです．破たんするにはそれ相応の理由がありますが，リスクばらまきはいわゆる上層部の暴走だったんですね．しかし，その暴走をとめるためにもう少し努力してほしかった… 本自体はトレーダーの実情がよく描写されていて，興味深かったです．			
	全部	388P (240分)	11章	2010/06/08 12:51:06
つて ☆☆☆☆☆	CDSは博打にすぎない。 トリックは、本来は博打に過ぎない投資を安全と思いこませる。 そして、マクドナルド氏のリーマンへの道が、金融狂乱への序章へ過ぎないことを改めて感じた。			
	全部	388P (200分)	11章	2010/05/18 12:04:33
maaa ☆☆☆☆☆	筆者によって、リーマン・ブラザーズの内情が詳しく描かれていて、リーマン・ショックがなぜ起こったのかが良くわかる本です。この本を読むと、リーマン・ショックは起こるべくして起こったということがよくわかります。			
	全部	388P (300分)	319-351	2010/05/10 13:01:08

TOPへ

物乞う仏陀

著者名	石井光太	発行年	2005年
出版社名	文春文庫	ページ数	341ページ
値段	650円	ISBN	978-4167717919
コメント	石井光太の視線は、正視するに耐えないものも鋭くえぐってゆく。25歳、6000ドルを握りしめて成田から出発して、カンボジア・タイ・ベトナム・インド……。 救いのない現実の連なりに暗然。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
nao ☆☆☆☆	東南アジアの歴史がこれほど悲惨なものとは知らなかった。 その一方で、現実を受け入れ日々をたくましく生きていく人々が印象的だった。			
	1ー74	74P (45分)	39-48	2010/08/18 13:54:01
鍋工房 ☆☆☆	以前読んだことがあるが、もう一度読み返してみた。 前回読んだ時の感想を見ると、こんなことが書いてあった。 「一番重要なことは関心を持ち続けること。それが一番難しい。」 全くその通りだ。読み返すまで、東南アジアの人々の暮らしになど、一度として思いを馳せた記憶がない。その事が少し悲しい。			
	all	341P (200分)		2010/08/18 04:19:20
マシュ ☆☆☆☆	日本人が思っているほど、東南アジアの国の中でも貧しい層の人々は悲観的にならずに、夢を持っていきいきと生きている、ということはとてもびっくりした。			
	10-48	39P (30分)		2010/08/06 17:40:28
1412 ☆☆	ルポの内容は衝撃的であった。しかし、その合間の著者の考え方には共感できなかった。また、著者の強引なインタビューの仕方には不快感を感じた。			
	1-341	341P (180分)		2010/07/27 11:37:17
つばくろう ☆☆☆☆	数々の発展途上国をめぐり、たくさんの乞食や障害者にインタビューした著者だから書けた発展途上国のありのままの姿だと思った。テレビや新聞などでは決して触れられない様な事まで踏み込んで書かれていてとても読みごたえのある本だった。			

	10-341	331P (250分)	all	2010/07/25 12:09:05

みぃたん ☆☆☆☆	貧しい国の人々に対して、事実とはずいぶん違うことを思い込んでいたんだ、と教えられた。			
	1-49	49P (60分)		2010/07/21 11:00:30

ditherman ☆☆	5章に「ハンセン病の村」という文章があるが，文庫化に際して追加された項目のようだ．この節だけでも良いので，是非読んでほしい． “本当につらく惨めな体験はどうやっても他人に説明できるものではない．ひたすら泣き続けることでしか語ることはできない．” ドタメの嗚咽がこれを語る． 翌日，石井は村から追放された． “観光客が訪れるべき場所ではない” という理由だった．			
	全部	341P (400分)	5章ハンセン病の村	2010/07/16 22:24:42

くらげ ☆☆☆☆☆	乞食というだけで私たちには馴染みがないが、この本に出てくる人たちはその中でも手足がないなどの障害者たち。東南アジアの最底辺と言っていい彼らだが、全員が全員、暗くてジメジメとした雰囲気をまとっているわけではない。 たしかに、私たちが想像するような絵に描いたような「可哀そうな人」もいるのだ。ドタメさんのシーン(188-190)はこの本の１つのクライマックスにも思えるし、インドの回は著者と同じように行き場のない怒りを持てあました。 それでも彼らは冗談を言って笑いあう。泣いて過ごしているわけじゃない。 トンディーの「幸せかどうかは分からなくても友達がいて冗談で笑えあえる。だから生きている」という話は、私にとってこの作品全体への救いだった(67-69) 彼らの逞しさを見習いたい。 東南アジア×旅行記×貧困層			
	1-69, 87-108, 128-148, 167-193, 211-231, 285-341	200P (130分)	188-190, 67-69	2010/07/15 19:26:19

ushiushi ☆☆☆☆☆	アフリカレポート・カラシニコフの後に読んだが、こちらのほうが筆者の主観が現れていて赤裸々だった。 書かれていた内容は衝撃的であったがそれ以上にそれに正面から向き合う筆者の姿勢に感嘆した。			
	すべて	341P (320分)		2010/07/13 13:10:06

ぼるてぃー ☆☆☆☆	障害者のための施設をどう考えるか。家族が介護から解放されると見るのか、障害者が家族と引き離され孤独になると見るのか。 幸も不幸も、とらえ方次第。 マイナスの部分を読んでしまうとどうしても引きずられるので、できるだけプラスの箇所を読んでください。マイナスの節：プラスの節＝１：４くらいで。それくらいマイナスの力は大きい。			
	10-13,212-248,286-333	89P (70分)	232-248	2010/07/11 17:44:19

	著者の行動力がうらやましい本			

chicken-run ☆☆☆☆	この手の本に多い「東南アジアの恵まれない人々はこんなに悲惨な生活を送っている。同情してあげましょう」みたいな安っぽい内容になっていないのが非常に好感が持てた。 第三世界を旅した旅行記として面白く読むことが出来ました。			
	全部	341P (120分)		2010/06/28 17:34:54

asce ☆☆☆☆☆	読み終わった後、すごく気分が落ち込んだ。それと伴に、自分の境遇に感謝した。 平和な日本に生まれた私にとっては、目を覆いたくなるような事実がこれでもかというぐらい書かれている。 この本は事実をありのまま書いていると思う。ただ、この活字から事実をイメージし、十分理解し受け止めることは、国、社会、親に守られ、安穏と暮らしてきた私では不可能のような気がする。 けれどもアジアの現実を知れたことは良かったと思う。			
	10‐341	332P (350分)	all	2010/06/14 17:34:32

komu ☆☆☆☆☆	自分にとっては衝撃的な内容ですが、現地の方々にとってはそれが日常であり、現実なのでしょう。 ただ、その状態がベストだとはとても思えません。 色々と考えさせられる充実した内容でした。			
	128-148、286-341	77P (50分)	128、135.136	2010/06/08 12:17:20

富士駿河 ☆☆☆☆☆	「これが事実なのだ、これが世界なのだ」 これまでアメリカやアフリカの現実に関する本を読んできたが、12ページの著者の気持ちと同様の衝撃を例外なく受けた。 非常にかわいそう、という思いももちろん溢れたが、人々の話を聞いていると、128ページのような気持ちに自ずとなるのである。			
	10-165ページ	156P (105分)	128-165ページ	2010/05/31 09:00:19

unknowoman ☆☆☆☆☆	この石田さんは何者なのか、興味がわいた。 いやいや２５歳で６０００ドルを片手に安定した日本での将来を捨てて、アジアを中心とした各地の障害者を訪ねる旅とは・・・。若干２５歳（「もう」２５か？）でこの人間としての器の大きさ、すごいね。 自身が体験したことを淡々と述べる口調には、どんな理論にも勝る説得力がある。旅の次に、石田さんがどのような行動を起こすのか、楽しみである。			
	すべて	340P (120分)	167-194	2010/05/27 09:52:54

7boys ☆☆☆☆	私は旅するのが好きだ。パッケージツアーを利用したことは無い。特に東南アジアは大好きだ。マレーシア、タイ、カンボジア、ベトナムに行ったことがある。（ちなみにマシンガンはベトナムで撃ちました）確かにあの地域には物乞いや乞食が多いが、彼らは生き生きとしている。物売りの子どもがあまりにキラキラしているので、うらやましくなってしまうほどだ。 この本では、彼らの人生がありのままに書かれている。もちろん筆者の聞いた情報だけではあるが、なぜ彼らがそのような人生を歩まざるを得なかったのか、ということがよく伝わってきた。 必死に生きること、それは私たちが失ってしまったことかもしれない。 同じ地球に貧しい人がいることを考えられるかどうか、それはきっと想像力にかかっている。 想像力を働かせて読むと知らなかった世界が見えてくる。 「加害者がいない。見渡す限り、犠牲者しかおらず、彼らは彼らの立場で苦しみもだえているのだ。」 何かひとつ、流れを逆転させることができれば、苦しみを幸せに変えられるのではないだろうか、という希望を持った。またアジアに旅したい。

	all	342P (200分)	16-34	2010/05/25 12:50:14

kyk ☆☆☆☆☆	目を背けたくなるような現実に生きる人々の 一人一人に確かなストーリーがあった。 大きな社会の動きの中で傷付きながらも懸命に生きる人々 の姿に言葉にならない痛みを感じた。 どんなに理解しているつもりでも、いざ彼らを目の前にしたら 誰もが目を背けてしまうだろう。			
	10-342	332P (180分)	88-108	2010/05/18 12:42:33

あるみ ☆☆☆☆☆	アジアの国々の、物乞いをする人々や障害を負った人々の暮らし。その境遇は私たちとあまりに違う。 私には彼らの生活を評価することはできないし、自身と比較して安堵するのも失礼にあたると思う。 ただ、彼らの存在を、その生活を、知ることができたということに、感謝したい。 この本は、私のものの見方に、確かに影響を与えた。			
	all	341P (180分)	16-34P	2010/05/18 12:38:50

かずT ☆☆☆☆☆	乞食は最下層の人々か. 東南アジアのような貧しい社会と日本のような豊かな社会では乞食に対する人々の認識が全く異なる. 物を乞うにはエネルギーがいる．演技もいる．彼らはいつも悲観的であるわけではない．生きるために物を乞う. 我々は必死で生きることをみっともないと思っていないだろうか.			
	1-165	165P (180分)	16-48	2010/05/17 22:46:35

サカサカ ☆☆☆☆☆	貧困問題の，想像を絶するようなダークな面と，そんな中で必死に生きる人々の姿を知った．日本にいたらまず関わることのない世界だと思う．でも，平和な生活を送っているからこそ，こんな世界もあるということを知って，それらについて考えることが大事だと思った. 特に最後の章はかなり打ちのめされるけど読んでみて損は無いと思う．「告発し糾弾したくても本当の意味での加害者がいない．」衝撃的すぎた.			
	1-341	341P (300分)	34-48,168-193,286-333	2010/05/11 10:48:40

Coppet ☆☆☆	自分が今、身をおいている環境との差に打ちのめされました。 日々の生活が保障されている環境にあることは本当に幸運（といって良いのかは分かりませんが）なのだと思います。 また、筆者が25歳という自分とさほど変わらない年齢で、障害をもった物乞いについて知りたいという一念でマフィアにまで潜入したという事実に衝撃を受けました。 自分に同じようなことが出来るかを考えるととても出来そうにありません。			
	1-341ページ	341P (200分)	128-148ページ、309-333ページ	2010/05/10 00:45:12

溪華 ☆☆☆	２００８年の段階でこのような状況が当たり前のようになっている事が衝撃的でした。今の生活がいかに平凡で安全が思い知らされます。仏教の根づくこれらの国で、何が救ってくれるのか、本当に救いはあるのか、と憤りさえ感じます。			
	10-342	333P (120分)	286-333	2010/05/01 17:51:36

たざわ ☆☆☆	「物乞う仏陀」というタイトルも衝撃的でしたが、内容もまた衝撃的でした。世の中に本当にどうしようもないことがあるんだと感じました。			
	286-341	56P (30分)		2010/04/26 21:47:22

おれ ☆☆☆☆	アジアの障害者とのかかわりで各国の問題の核心は容易に見える。しかしなによりも筆者と現地の障害者たちとの親密な交流から徐々に見えてくる彼らの日常や人生観が興味深い。			
	1-86P、250-283P	120P (180分)	16-48P	2010/04/19 10:54:09

ポチ ☆☆☆	一昨年の秋にベトナムを訪れた際、「日本人が訪れるには危なすぎるから、庶民の住んでいるところには行かないでください」と言われたのが心に残っていたので、ベトナムの章を中心に読んでみた。 ベトナム戦争中に多くの赤ん坊を取り上げた産婆さんの話に胸が詰まる。発展途上のホーチミンの街からも、戦争証跡博物館の展示物からも見えてこなかったものはここにあったのだ、と思った。			
	pp. 128-165, 212-268, 286-333	143P (120分)	pp. 128-149	2010/04/17 20:40:31

ドナルド ☆☆☆☆	自分がこれまで知らなかった，知ろうともしなかった乞食・障害者という人々の実態. あまりにも非現実的な現実の連続. 読んでいて気持ちは沈むばかりだが，損はないと思う.			
	1-342ページ	342P (180分)	286-289	2010/04/16 14:48:19

TOPへ

絶対貧困

著者名	石井光太	発行年	2009年
出版社名	光文社	ページ数	272ページ
値段	1,500円	ISBN	978-4334975623
コメント	石井光太さん。同じ著者の本が続きますが、私たちがおそらく一生関わらずに「済む」（←この２文字をゴチックとして読んでください）であろう世界を、ここまで深く、たしかに、かつ明確な主張とともに届けてくれる書き手さんを他に知りません。 山室的立ち読みポイントは ・45-46ページ メイちゃんのお母さん ・145ページ 花売りビジネスモデル ・259-260ページ 売春宿の子供は高学歴		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
マシュ ☆☆☆	前に読んでた人のコメントなどを見て読んでみた。やはり売春の是非について考えてしまったが、キレイごとで済まされる話では絶対にないし、日本から考えているだけじゃ理解するにも限度があると思った。もっと世界を見なければな、と思った。			
	218-281	63P (60分)		2010/08/18 16:39:24
wax ☆☆☆☆	貧困のリアルな世界を書いた本です。 主観的に書かれているので、 テレビなんかより全然リアルでした。 そして話がとても読みやすかったです。			
	1-286	286P (120分)		2010/08/10 11:14:21
たざわ ☆☆☆	「第三部の売春編」を読みました。 『物乞う仏陀』よりは読みやすいと感じました。 「悲しいかな、古今東西、男が考えることなんて似たり寄ったりなのでしょう」というところが、共感できました。 そして、政治の世界と性の世界とは異なっており、肌の白い女性が好まれるということも興味深かったです。最近の美白ブームは、関連しているのでしょうか。 売春婦の子供の方が、きちんと学校に行っている・・・なんだか売春も絶対的に悪いとは言えないようで、難しい問題だと思います。			

	自分の職業について選択できたり、生きる意味について考えられる日本人は、本当に贅沢だと思いました。			
	218-281	63P (30分)		2010/07/24 19:22:11

g2oma ☆☆☆	売春は悪いかいいか、国に必要なものかないか･･･読んでもまた分からなくなった。			
	218-281	63P (100分)		2010/07/20 07:42:16

つばくろう ☆☆☆☆	世界の最底辺の人々の生活がありのままにえがかれていた。日本に住んでいると正直想像もつかない世界でした。腎臓売って２０万円とか切なすぎます・・・			
	1-286	286P (150分)	3章	2010/07/12 21:45:50

江戸川 ☆☆☆☆☆	日本の貧しさとは比較することもできない最貧民の暮らし。 読む前も読後にショックを受けてもなお決して関わろうと思わない世界。 彼らが可哀想だよね、という語り口ではなくありのままが綴られています。 ショックを受けることうけあいの一冊です。			
	全部	272P (150分)	120ページ図表	2010/06/29 16:55:31

ばっは ☆☆☆☆☆	相対貧困でなく、絶対貧困。 私たちは本などでしか知ることのできない世の中。知らなくても何も変わらないし、知ったとこで何もできないだろう。でも、知ってほしい。 この本で氷山の一角にでも触れたのだろうか。			
	全部	285P (120分)	171	2010/06/26 16:19:08

くま ☆☆☆☆☆	圧倒されすぎて、コメントができません			
	1-286	286P (120分)		2010/06/22 12:54:14

ditherman ☆	あらかじめ言っておく．この本，要注意！ 250ページ周辺(図13-8とか)を読むときは，人がいないところで読むこと． 言ってることがよく分からない？いや，エロ本だって言ってるだろ！ 家帰ってよく見直すと「男性」って書いてあった…			
	全部	272P (300分)	なし	2010/06/17 22:44:48

an ☆☆☆☆	貧困って簡単に言ってしまっているけど、実態は言葉で表わされるようなものじゃないんですね。 まさに「絶対貧困」です。 ここまで事実を突き付けられると、自分たち先進国市民は一体何をすればいいのか全く分からなくなる。			
	ｐｐ12-ｐｐ196	184P (120分)	pp84-pp132	2010/06/15 13:12:34

	事実をきちんと描写している印象を受けました。そして、「男性だからできること」だということも感じました。私自身はいわゆる発展途上国（主に東南アジア）に旅をするのが好きなので各国に行ったことがあるのですが、いつもたいてい女２人旅なので、あまり危ないことができません。p.151には物売りから物を買ってあげれば彼らと親しくなり、路上の住処につれていってくれる～などと書いてありますが、それは安全性を考えるとなかなか厳しいものがあります。だからこそ、この本を読むことで「リアル貧困」を「一見」することができ、非常に有意義でした。読んで			

7boys ☆☆☆☆	いくと、やはり、女性が少人数で歩かない理由なども見えてくるわけで、特にアフリカに行くのは少し大変そうだとも感じました。 ところで、ワールドカップが始まりますが、南アフリカは５人に１人がHIV感染者という統計もあり、観光客が増える時期に性産業も盛り上がってしまうことが予想されるそうです。売春業界ではいち早くグローバル化が進んでいることも興味深かったです。			
	all	286P (120分)	133-151,265-281	2010/06/11 17:45:49

unknowoman ☆☆☆☆☆	実は、「物乞う仏陀」や本書を読んでいたとき興味深いと思いつつも、「詳しく調査したのはわかるが、それでどうしたいのだろう」と偉そうにも思ってしまっていた自分がいました。でも筆者の「貧民の目線」という言葉にハッとしました。マクロ的な上から目線だけでは貧困問題解決はできなくて、その人たちにとって必要なミクロ目線も調べることが必要だったのです。本当に目からウロコでした。「貧困学」の発展を祈ります・・・！			
	すべて	283P (120分)	282-283	2010/06/07 10:52:09

なかま ☆☆☆	物乞いや売春婦のヒエラルキーなどが興味深かった。 著者の丁寧な取材の結果が随所に現れている本だと感じた。 著者は本書の目的として、海外の現実をわが身のこととして考えるきっかけとなってほしいと言っているけれど、今まで本書を手に取ったうちの何人が具体的な変化を起こしたのだろうか。 著者が関わった途上国の人たちは、突然やってきた著者を世話してあげて、話を聞かせてあげて、写真を撮らせてあげて…でも自分たちの生活は何も変わらない。 私たち日本人は、あらゆる面で途上国から圧倒的優位にあり、資源と同様に情報も搾取していると思わずにはいられない。 …考えすぎでしょうか。。			
	全て	272P (90分)	152-158,265-276	2010/06/03 13:43:42

マカロニぺんぎん ☆☆☆☆☆	「百聞は一見にしかず」とよく言います。ふつう、本を読み知識を得ることは「百聞」のほうに該当すると思いますが、この本はどちらかというと「一見」側に分類されるでしょう。筆者が実際に赴いた土地での体験をありありと描いていて、絶対貧困と分類される人々がどのように暮らし感じているかを読むことができました。 この本には悲惨な場面も多々ありますが、私としてはそれ以上に「人はどのような状況でも、生きることを喜び楽しむものだ」ということ知れたのが収穫でした。			
	全部	286P (180分)	35-38ページ	2010/06/01 00:11:46

WHISKYMAN ☆☆	途上国の貧しい人たちの実情がわかる。内容はやや重いかもしれないが語り口は穏やかかつ親しみがあるので読みやすい。平和ぼけした日本人には考えられないような汚い、目を背けたくなるような現実があるのだなと思った。この世界に勇んで飛び込んでいった著者はすごい。			
	全部	281P (180分)		2010/05/18 10:37:04

ありす ☆☆☆☆☆	思わず目を背けたくなる、でも決して背けてはいけない真実がそこにある。 絶対貧困――同じ人間でありながら、関わることも知ることもない世界。明日を夢見ることすら許されない、そんな日々を生きる人々の強さに心を打たれる。 知らない、では済まされない。			
	ぜんぶ	272P (90分)	259-260ページ	2010/05/09 20:24:33

kyk ☆☆☆☆☆	途上国の路上生活者の力強さに圧倒されました。 彼らの生活は苦しいだろうが貧しいのでしょうか。 薬も薪も病院もないなかで支え合って生きる力が豊だと思いました。			

	84-213ページ	29P (60分)	113-132	2010/05/09 11:21:38

ボム ☆☆☆☆	本当に衝撃的でした。今まで考えていた貧困民の方々の生活と実際は全然違っているのだな～と思いました。潔癖の日本人は住めないと思います。臓器を売ってもそれしかもらえないって… これからは無駄使いはやめようと思います。			
	1-100,218-最後	186P (90分)		2010/04/20 12:57:59

サカサカ ☆☆☆☆☆	テレビなどのメディアからの情報だけでは分からなかったり，誤解されてしまうような，スラムや物乞いの実態がありのままに書かれています. 「かわいそう」とか，「悲惨」とか，そんな言葉では言い表すことができない貧困問題の深さを感じ，最初から最後まで衝撃の一冊でした.			
	1-281	281P (240分)	44-47,113-120,189-192，204-209	2010/04/20 11:08:25

TOPへ

ITとカースト インド・成長の秘密と苦悩

著者名	伊藤洋一	発行年	2007年
出版社名	日本経済新聞出版社	ページ数	228ページ
値段	1,700円	ISBN	978-4532352417
コメント	世界のITを支えつつ、頑としてカースト制度も健在。新旧混交の不思議の国に日本人視点の率直さで迫ります。 ほんとに、どうしてインド人はオリンピックでメダルを取れない（むしろ、取らない）んでしょうね。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
yuigawa ☆☆☆☆	とにかくインドは無視できないと度々いろんなところで言われている気がしたので、勉強するつもりで読んでみた。 飛躍的な成長という栄光の面だけでなく、『苦悩』と表した暗い面をもきっちり取り上げているので読み応えがある。 カースト制…現代的日本人の感性では理解できない。できないけれども、そうした不平等のもとに保たれている均衡もあるのだと考えることもできる。今後のインドがカースト制とどう折り合いをつけていくのか、やはり見逃せないと思う。			
	全部	228P (60分)	第4章	2010/08/13 05:29:17
wax ☆☆☆☆	インドにおける経済成長の要因を探る本。 カースト制度と関連させて説明しているのがおもしろい。 最近よく「今外国行くならインドに行くべき」と言われます。 今インドがあついみたいです。			
	1-240ページ	240P (120分)		2010/08/11 01:25:54
an ☆☆☆☆	ITと聞くと、高級な産業のようなイメージがあるかもしれないが、決してそんなことないです。インドとITの組み合わせの必然性が、少しばかり分かった気がします。			
	1-84	84P (60分)	2章	2010/07/15 17:44:10
くま ☆☆☆☆	時間が足りなかったが、インドの話が良く分かるので、 次は時間をかけてまた読みたい。			
	1-30	30P (30分)		2010/06/22 12:55:46

おれ ☆☆☆	紀元前からの歴史をもつカーストを貫く近代のIT産業。そして教育や貧困、消費経済の視点からインドを語る。ITが一部の民衆の希望になっているのは間違いない。しかし我々が理解しがたい価値観や風習が残る国だからこそもっと多角的な視点が必要な気がする。見た目より読みやすくシンプルな印象。			
	1-244	244P (240分)	47-53	2010/06/21 19:46:20

ドナルド ☆☆☆	インドにおけるカースト制度が未だに強く根付いているという事実が，オリンピックでのいまいちな成績に反映されているという論理はなかなか興味深かった. しかし作者が実際にインドを訪れて取材したのはわずか３回，期間も短いためか，全体的にノンフィクションとしては軽い（薄っぺらい？）印象を受けた．論理は筋が通っていて分かりやすいのだが.			
	1-160	160P (120分)	41-46	2010/06/07 18:27:36

1412 ☆☆☆	この本では、現地での取材をもとにインドの急成長の理由について著者の考えを述べている。また、急成長の陰で苦しむインドの最下層の人々の姿がえがかれる。ITが今までのヒンズー社会の職能分類に入らない産業という考え方がおもしろいと思った。インドの人々の現状については、著者の主観的な記述が多いせいか現実味を感じられず物足りなかった。			
	1-156	156P (200分)		2010/06/02 14:58:55

ふり太郎 ☆☆☆☆	インドでのIT産業の発達には、インド人が英語を使えたこと、アメリカとの時差が12時間で仕事のバトンタッチに丁度よいこと、カーストのしがらみを超越できること、様々な偶然的要因によって促進されたのは面白い事実です。経済成長の妨げとなっていたカーストのしがらみも都市部では少なくなってきているようで、日本企業のインド進出もますます多くなるのでは？ 山村部の人々の識字率向上、輪廻転生観の棄却化は急務な課題です。あと、インドにスポーツは根付かないんでしょうね			
	全部	244P (150分)	53-64ページ	2010/05/21 00:09:38

あるみ ☆☆☆	論理展開がはっきりしていて著者の主張が読み取り易い。 インドが今、ITを中心に急成長を遂げている理由が、よくわかる。 ヒンドゥー教、特にカーストが、今までインドの成長を妨げてきており、そしてこれからも問題の一つになるであろうことも良く理解できた。 一方で、強調される農村の貧困がいまひとつ入って来にくかったのは、「資源大国アフリカ」で読んだ壮絶な世界と比較してしまうからなのか… この2冊はもう少し間をあけて読むべきだったかもしれない。 追記 この本を読んだ人は、「物乞う仏陀」の第八章も読むことをお勧めします。			
	all	244P (180分)	特になし	2010/05/11 13:03:21

WHISKYMAN ☆☆☆☆☆	インド成長の光と影について。ITや数字に強く、英語がつかえて多くの人口をもつインドにはこれから益々の活躍が期待できるであろうということは良く聞くが、その一方で深刻な問題も多く抱えていることは意外と知られていないのではないか。立ち読みポイントはそういった問題がまとめられた箇所である。また第4章「インド最下層の現実」には具体的な話が書かれているのでとても興味深い。			
	1-244	244P (250分)	116-121ページ	2010/04/25 01:10:34

TOPへ

カブールの本屋 ーアフガニスタンのある家族の物語

著者名	アスネ・セイエルスタッド	発行年	2005年
出版社名	イースト・プレス	ページ数	356ページ
値段	1,800円	ISBN	978-4872575781
コメント	アフガニスタンの首都カブール。当地ではそこそこ裕福な部類に属する一家庭に女性ジャーナリストが寄寓し、ブルカをかぶった女たちと寝食をともにして、ゆっくりゆっくり気持ちを聞き出した。このまことに稀有な取材を、ていねいに再構成することで、男たちの自負、女たちの忍耐のそれぞれが徐々に焦点を結んでくる。タリバン以後の、この社会における暮らしのありよう、幸せのかたちは？ 13人の家族の世話を一手に引き受け、土埃舞う部屋で黙々とタマネギ炒めをつくる黒い瞳のライラの運命にどうか耳を傾けてください。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ドナルド ☆☆☆☆	イスラム社会の中で生きていく女性たちの心情を詳しく書いている．文化は違えど，嫉妬したり，卑猥な話で盛り上がったり，本質的なところは私たちの社会の女性と変わらないんだなということに少し安心した．			
	1-150	150P (60分)		2010/07/03 16:05:12
asce ☆☆☆☆	小説風に書いてあったが、ノンフィクションなのだと思うと、ダウナーな気持ちになる。 こういった部類の本を読破するには、それなりの覚悟と勇気とあきらめが必要になってくると思う。 皆さん気をつけて！！！			
	all	357P (300分)	エピローグ	2010/06/21 11:37:54
くらげ ☆☆☆☆	アフガニスタンでの生活なんて想像もつかない。 そういう人にも、親しみをもって想像できるような本だと思う。 この本は白人女性ジャーナリストが、ともに寝泊りして聞いた生活を、小説風に書き直している。 寝泊りした家族が本屋の主人で、アフガニスタンでは教養人の部類に入るためか、タリバンのことには否定的だし、ビジネスマンとしての性格が強いために民主主義の私たちにも理解しやすい。 そういう文化においての女性の扱いが、この本の一番のテーマ…なのかな？ 男尊女卑で可哀想とか一言で済ませるのではなく、 その中でも仲のいい夫婦とか、嫉妬する妻とか、さびしがり屋の妻とか、ちゃんといるんだなぁと思った。 結婚に自分の意思はほとんどないし、平等では決してないけれど、それだけで絶対不幸になるわけではなく、いろいろな女たちがいるんです。			

	まあ自分は絶対になりたくないです。			
	1-44,63-100	82P (60分)		2010/05/28 12:49:24

ろしあ ☆☆☆	イスラム社会に関してほとんど何も知らなかったが 女性に対する日本では考えられないような常識、イスラム教としてアフガニスタンの人々が信じるもの。 この本を読んであまりの文化の違いに驚き、ショックさえ受けた。			
	1-166	166P (150分)	65-67	2010/05/24 21:33:23

溪華 ☆☆	日本では考えられないような事が当たり前なので、余計に遠い世界の、関係のない話、と片付けてしまいそうになる。 しかしそこで悩む人、悲しんでいる人、それが当然だと思っている人もいる。もし悩んでいて、それを打開しようとしている人がいれば、手をかすべきなのは当然でも、それで本当にいいのだろうか。 西欧目線の、エスノセントリズムと、固有の文化という問題を考えさせられる一冊だと思う。ジェンダーと言ってしまえばすぐだろうが、一体どの価値観が一番正しいのか、優れているのか決められない。			
	10-373	374P (240分)	168-177	2010/05/14 18:04:56

ありす ☆☆☆	恋をすることも許されないなんて。男尊女卑？そんな安っぽい言葉で言い表すことなんてできない。 自分の娘くらいの年齢の少女に妻の座を奪われたり、家政婦（むしろ奴隷？）のように扱われたり。どうして怒らないの、反論しないの、立ち向かわないの！と思ってしまうけれど、それはわたしと彼女たちの立場の違いなのかな。 砕け散ったライラの心を拾い集めてくれる人が現れたらいいのに。			
	ぜんぶ	356P (150分)		2010/05/12 21:25:15

なかま ☆	白人女性の目線だなという印象。本人も言っているように、だからこそアフガン男女の間を行き来できたのだろうけど… 当たり前のことだけど、これだけが全てではない。わかる人には分かるだろうけど、こういう類の話って書いた本人の意図から離れて都合の良いように使われてしまう気がする。 それでも、ジャーナリストらしい細かい記述には舌を巻きます。			
	11-28,64-134,318-367	139P (120分)	64-67	2010/05/02 11:58:48

TOPへ

アフリカ・レポート

著者名	松本仁一	発行年	2008年
出版社名	岩波新書	ページ数	199ページ
値段	700円	ISBN	978-4004311461
コメント	『カラシニコフ』の著者が伝える最新のアフリカ情報。 失敗だらけの国づくり、たくましき中国人商人の展開など興味尽きないが、経済学を勉強している社会工学生なら、下記の２点をぜひ考えてほしい。 ジンバブエの惨状について、著者はインフレ率16万%、ハンバーガー１個が3000万ｚドルと紹介し、それもこれも権力が腐敗し、ムガベ大統領が私腹を肥やしたせいだ、と指弾する。 疑問１ 物々交換が常態の国において、通貨を基準にした数値は、どれほど意味を持つのだろうか？ 疑問２ 権力者がスイス銀行に隠し口座を持ったくらいで、国の富がすっからかんになってしまうものなのだろうか？		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
nao ☆☆☆	これを読むと、アフリカに限っては植民地支配が続いた方がよかったのではとさえ思う。 中東をはじめ、多部族国家の困難は日本に住んでいる限り理解できそうにない。			
	1－79	79P (40分)		2010/08/18 14:19:12
B4たかし ☆☆☆☆	この本を読んだら，ユニセフやNGOが行っている募金活動に，手軽に金銭を挙げようと思えなくなってしまった. 「自分らのせいで飢餓になってるんじゃん，自分で何とかしろよ！」という考えが浮かんでしまうからだ. もちろん政府が悪く国民に罪はない，とは思うのだが 好きで独立して好き勝手やって，挙句先進国に援助を求めるんですかそうですか.			
	15-116	102P (90分)		2010/08/05 15:34:36
7boys ☆☆☆☆	国がどうやって壊れていくのかがよくわかる本。 政府を今、私たちは自分の手で、一票を投じることで選ぶことができる。 それがどれだけ幸せなことであるか、わかる。			
	all	205P (100分)		2010/07/20 12:33:09
	題名通り，本当に“ただのレポート”になっており，事実をただ並べただけで，本当に主張したいことが陽に書いていない文体になっている．衝撃的な写真とは裏腹になかなか主張を強調しない著			

ditherman ☆	者なので，イマイチ何が言いたいのかが明確ではない．その中でも，Asagi氏のコメントの最後の1文が，著者の主張を見事にまとめた素晴らしいコメントだと思う． ＞国を理性で動かすのは実は大変なこと 例えば，インフレを止めようとジンバブウェの大統領が思いつきで「あらゆる商品を半値にせよ」と非理性的な判断をしても，国民は至って理論的で，半値では原価を割るので商人たちは商品を店頭から引込め，闇市場で高額で売る．その結果，値段が急騰してしまった． 冒頭で，著者は政治的観点からアフリカ国家を大きく4つに分類しており，興味深い．ただ，これだけしっかり分類できているのにもかかわらず，「アフリカ」レポートと題してしまったのが非常に残念．南アのような国と“壊れる国”が混在する地域だけに，「アフリカ」で括るのはそろそろやめて欲しい．			
	全部	199P (250分)	なし	2010/07/16 22:21:35

Asagi ☆☆☆☆	ジンバブエのインフレ率は2009年1月の時点で年率6.5×10^108%。 嘘・冗談・紛らわしいだらけのアンサイクロペディア中で、ほとんどが事実という希有な事例。 独立運動、白人の排斥、略奪、腐敗。 国を理性で動かすって、実はとても大変なことなんだと思います。			
	1-52	52P (30分)		2010/07/13 08:30:57

c nd ☆☆☆☆	テレビのドキュメンタリーなどで見るアフリカとはまた違った印象をうけた。 あまり日本では詳しくとりあげられないので、この本では細かくレポートされていて分かり易かった。			
	1-123	123P (80分)		2010/06/29 13:13:53

オレンジ ☆☆☆☆☆	『故郷で家族と暮らしたいと願う大衆の夢を奪うのは、つねに国家なのである。』(p.126) この本は、ルポ資源大陸アフリカよりも政府の腐敗に焦点があてられてるように思います。 利権を重視し、国家のことを考えず、目先の責任を回避して権力の延命を図る。 今の日本の政治家にも同じような人はいますが、全然レベルが違います。 人々を不幸にするのは貧困ですが、その貧困の原因を作っているのが政府なわけですから、絶望的な気持ちになってしまいます。 先日、世界の独裁者の2位にジンバブエのムガベ大統領が選ばれました。 しかし、他のアフリカの国々の首脳はこの大統領を認めないわけにはいかず(あとがきに色々と書かかれてます)、日米欧の基準が間違っているとの姿勢を貫いています。 どうすればこの対立を解消できるのか、私には分かりません。 一方で5章、6章を読んでちょっと救われました。 西水さんの草の根ではないですが、国民が国に頼らずに自立し、幸せに暮らせるようになることを願っています。			
	全て	199P (130分)	第5章、第6章	2010/06/24 13:18:32

ushiushi ☆☆☆☆☆	アフリカの国民、アフリカの国家、先進国の国民、先進国の国家、絡まった糸はどこから解いていけるのだろうか。 初めてこのような本を読んだが、新たな視野が開けた。W杯の裏側でこのような背景があることを知れたのはタイムリーだった。 最後の章を読んで少しほっとした。			
	すべて	205P (180分)	第6章	2010/06/22 12:53:52

g2oma	アフリカの国づくりを見ていると、50～70年代の政治が思い出す。独立のために物理的な戦いが必要ということは同感するが、戦いの指揮者が国を指導者として適切かはよくわからない。 また他の人（白人・・・）のせいだとはいっても政治に腐敗で、結局国内の不満を外の敵を作って、解決しようとしていることを見ていると、歴史はいつも繰り返すのであることを感じる。

☆☆☆☆	ただ、まだまだ解決が見えないアフリカの状況は悲しい。			
	1-5,1-79	84P (60分)	1-5	2010/06/21 12:10:04

chicken-run ☆☆☆☆☆	リアル北○の拳状態ヒャッハー!!な本 この本を読み終わって思った感想はただのひと言。 「どうしてこんな奴らを独立させた？」 国を取り仕切る気のない主導者と国に帰属する気がさらさらない国民。こんな状況で国がまともに成り立つわけがない。 やれ中国が進出して潤ってきてるだの、やれワールドカップだなどと騒ぐ前に、今一度かの土地の悲劇的な状況に目を向け、現実を認識するべきではないのだろうか。			
	全部	199P (120分)		2010/06/15 02:10:21

くま ☆☆☆☆	中国人がアフリカに移住するあたりの話が面白かった			
	1-205	205P (120分)		2010/06/08 13:01:26

ukayare ☆☆☆☆	アフリカ政府の愚かさと、国民の道徳精神の低さ、そこに商魂たくましく殴りこみに行く中国人、または不法に日本まで来て稼がなくちゃいけないアフリカ人、人の本質を見抜き事業を成功させる日本人、まさに天国と地獄・・・というかカオスである。 やはり教育は大事である。が、周りがそれに関心を抱かなければ教育はなりたたない。第二次大戦で敗戦を期した日本がここまで立ち直れたのもひとえに戦前から教育というものの可能性を人々が信じていたからであろう（いい意味でも悪い意味でも）。アフリカではそもそもそういう概念がないのでそうならないんだろうな・・・。 しかしながら人間だれしも見返りがあれば頑張る。ちゃんとやっていれば報われる、見返りがある。つまり昇給や重役になれる。そういった明確なビジョンが見えないとやる気にはなれない。 現在の日本ではやっても報われないという疑念が蔓延している。これだけやっているのにまだ足りない、もっとやれ、と上司から言われ、運悪く落ち度がなくても損失があれば首が飛ぶ。何とも住みにくい。 やはり日本を立て直すためにはそういった単純なことが一番重要なのではないのだろうか？ とりあえず言えることはWCに行こうと思う人は最初の方だけでも読んでから怯えながら観戦に行けばいいと思うよぉ。			
	全部	199P (150分)	6章	2010/06/02 17:22:33

1412 ☆☆☆☆	アフリカに移住した中国人の話が印象的だった。たとえ治安が悪くても、物が売れそうならそこに店を開く。中国人はタフだと感じた。			
	1-199	199P (180分)		2010/06/02 14:52:51

ボム ☆☆☆	同じアジアということで中国人の内容が書かれている箇所だけ読みました！ まず驚いたのは、こんなに中国人がアフリカに移動して、そこに住みついてしまう人もとっても多いということです。 事業に成功する中国人もいれば、失敗して貧しい生活を強いられる中国人もいます。むしろ母国にいた方がよかったんじゃないかと思いますが… 麻薬犬ならぬ、アワビ犬が存在するのにも驚きですわ			
	81-123	42P (50分)		2010/05/25 13:01:19

つばくろう ☆☆☆	アフリカの国々では一部の支配者が利権を独占し人々は貧しい暮らしを強いられる。そして国外からの援助も支配者が着服してしまい人々に還元されない。 そんなアフリカだがモノや金の援助から、人々にやる気を出させるような援助に変えることで生活がよいものに変わって例もあり、それがアフリカに残された最後の希望なのかもしれない。			

	1-205	205P (150分)	第五章	2010/05/24 21:33:10

富士駿河 ☆☆☆☆☆	課題２が出たほどの想像し難いほど私利私欲に夢中になる政府と、苦しみながらも自立に向けて進む人々。よくありがちな（例：ルポ貧困大国アメリカ）二項対立だが、国際化が進むに連れて問題は多様化、複雑化していく。 ５、６章で「政府に見切りをつけ」とあったが、知識と徳のある政府がない限り、苦労して独立した国家が一致団結する事が難しいと思うのは、自分だけだろうか。一企業や一団体が成功するだけでなく、国全体、アフリカ全体が幸福になるには、困難だが政府を変える事が必要な気がする。			
	全部	210P (140分)	54-79,174-205ページ	2010/05/20 05:18:16

DAIKINエアコン ☆☆☆	タイトルの通り、アフリカの現状を特派員の社内レポート風に書きあげたものである。文章はほぼ具体例のみで構成され、ともすれば冗長という印象も受けるかもしれない。 ただ、アフリカの現状はそれ自体が先進国の常識を完全に逸脱しており、下手な物語性を持たせないが故、率直な驚きを覚える。			
	全ページ	210P (150分)	15-52	2010/05/02 14:30:50

かーたか ☆☆☆	１６万％というインフレ率や、１００万人が流民化するなど信じられないほどの桁違いのオーダーで社会が壊れていく。テレビで見る断片的なアフリカの貧困の映像は感傷的に見てしまうものだが、このような数字を目の当たりにし、その原因を追っていくとその社会構造の破綻の激しさに冷静にショックを受けてしまう。 それには私利私欲のための権力の腐敗が主な原因であるとしているが、それを可能にしているのは植民地支配の過程で出来た民族間の境界により多数派と少数派の民族の差が大きくなり、自分の民族からの票を確実に得られるというものがある。しかし腐敗が起きるまでの農業を支えていたのは白人のテクノクラートであったりする。人種、民族、欲望、様々な要素が「よくできた」悪循環を生む。もしもこの土地に生まれていたなら、一体何ができるだろうか。			
	1-52	52P (60分)		2010/04/20 12:18:13

ＴＯＰへ